

令和5年度
協働によるまちづくり中央集会

掛川市全自治区対象アンケート 結果から読み解く これからの地域づくり

1

本日の内容

令和4年掛川市
全自治区アンケート



- 1.自治区(区長)の現状
- 2.自治区の活動
- 3.自治区の問題
 - ①担い手問題
 - ②負担の問題
 - ③住民参加の問題

2

アンケートの配付・回収

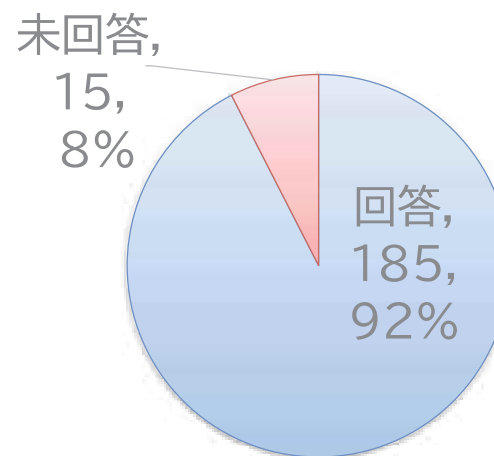
実施主体:掛川市区長会連合会・掛川市

対象:市内200自治区
※休止中の自治区を除く

実施期間:令和4年7月から8月

3

アンケートの回答率

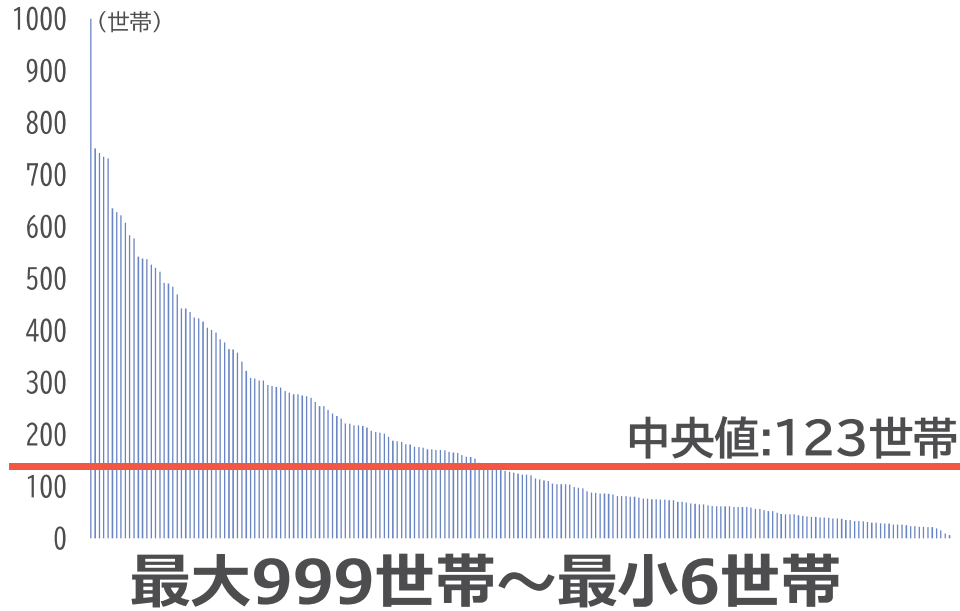


92%の高い回答率 → まさに実態！

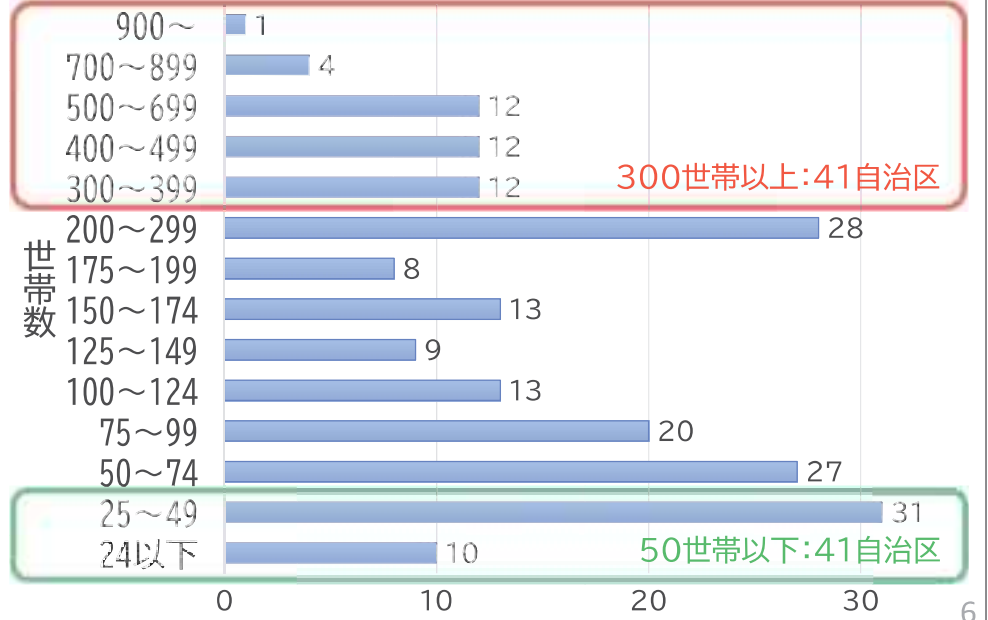
4

加入世帯の規模(世帯数)

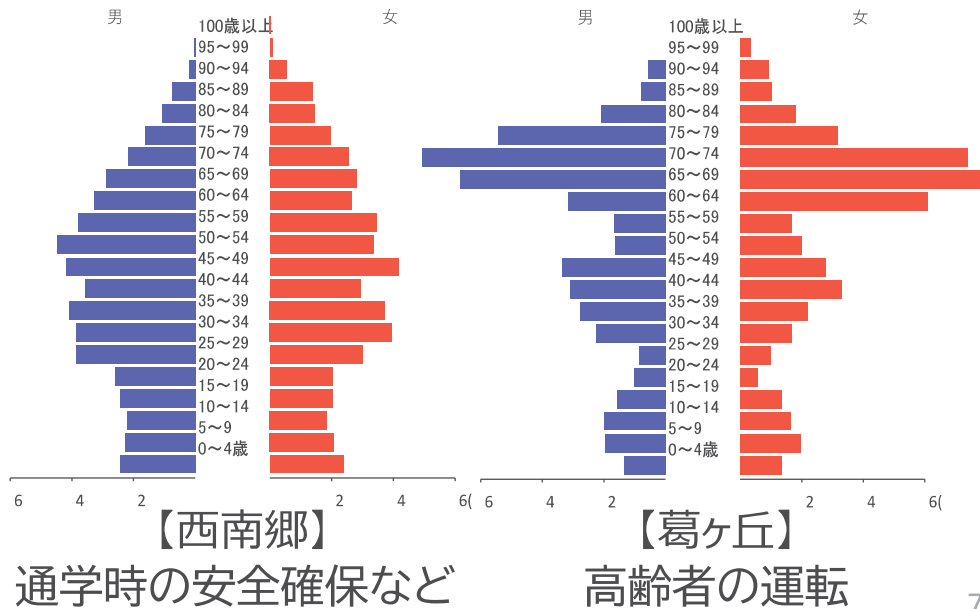
1. 自治区の現状



自治区 加入世帯の規模(世帯数別)

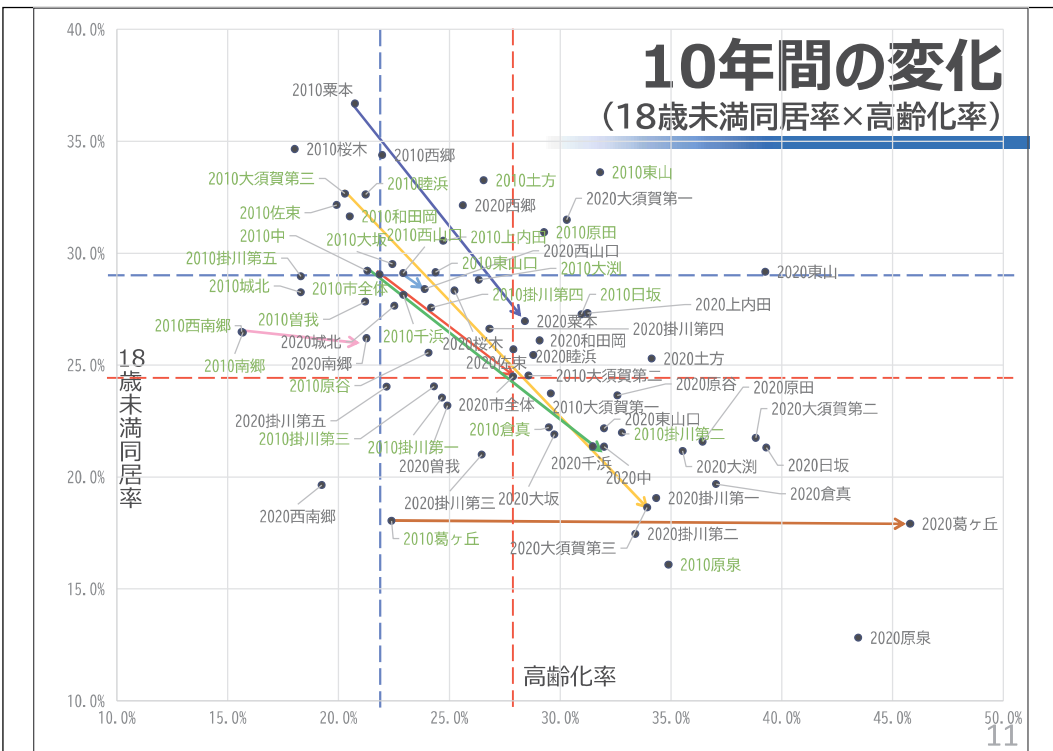
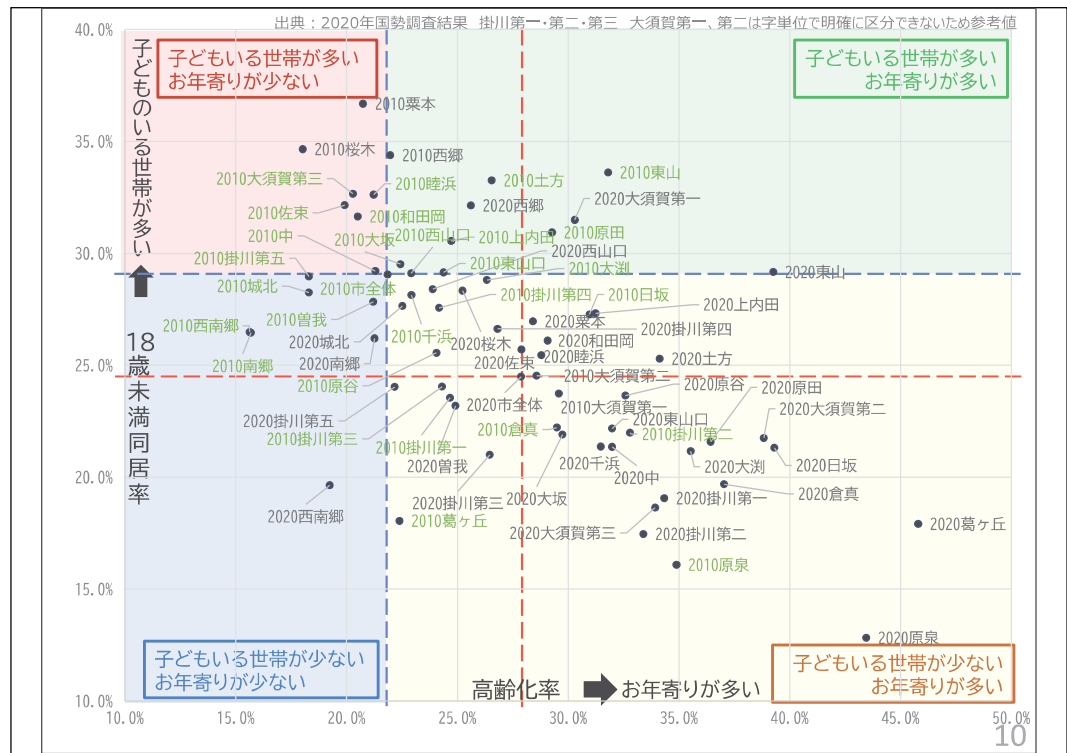
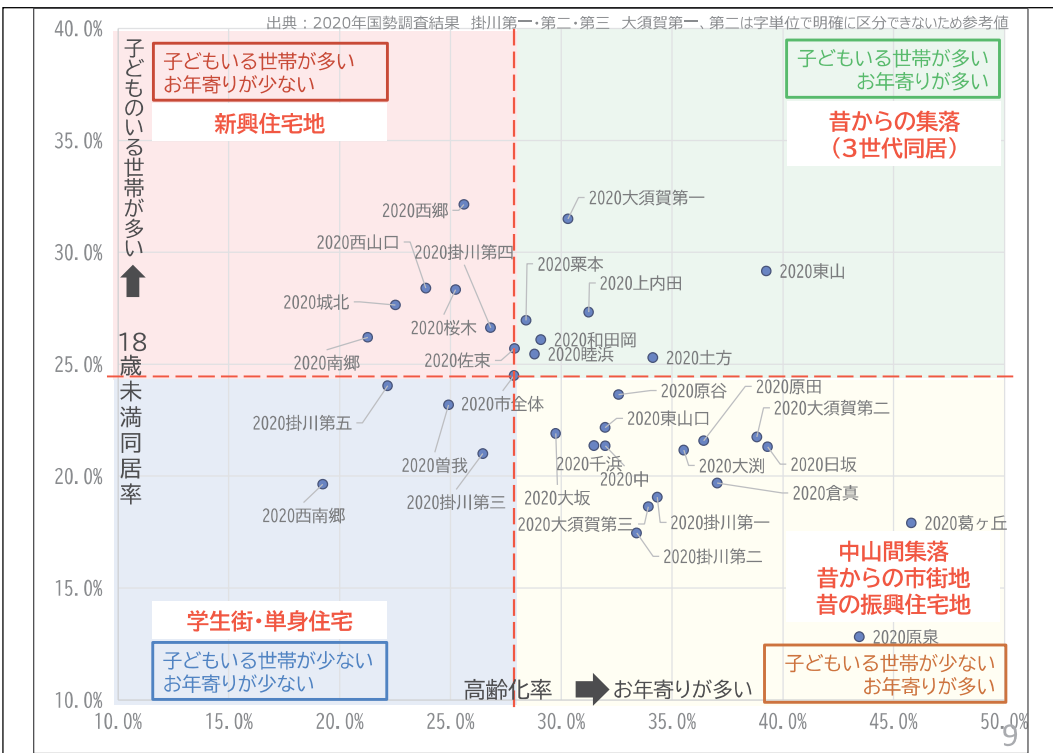


自治区 人口構成の違い



「地域」といっても
同じではない
(全然違う!!)





変化が大きい

||

活動の対象者・参加者も変化

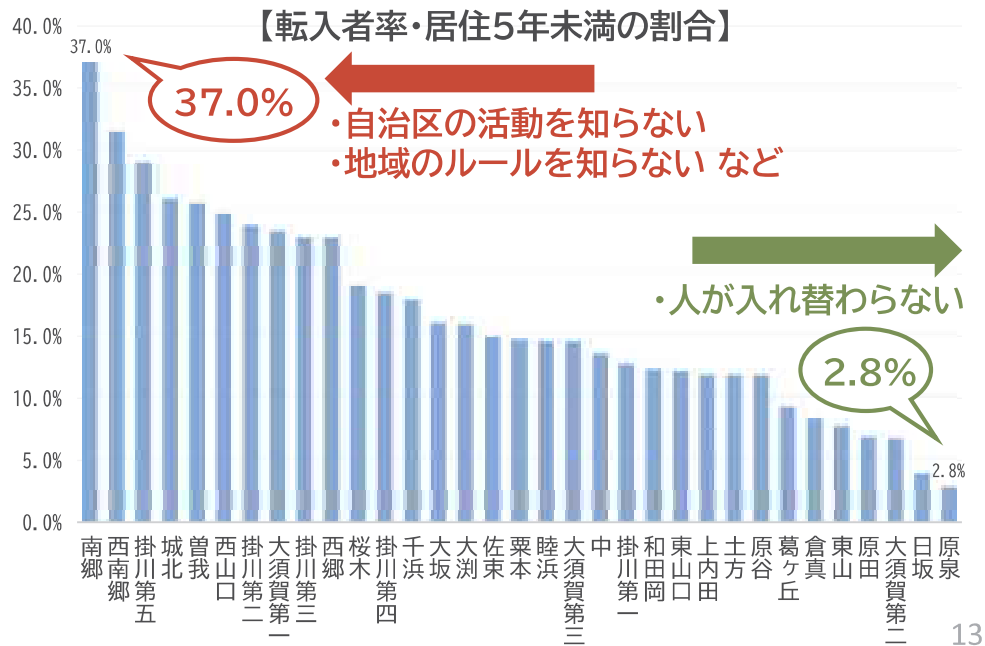
↓

「今までのやり方」
では通用しない

「活動の点検と見直し」が必要

12

自治区 転出入者の違い



転入者が多い

自治区の活動知らない人多い
地域のルールを知らない人多い

「昔からやってるから」は通用しない

他の地域と同じなら良い
ということではなさそうだ

14

「地域」には多様な背景

- ・加入世帯数(規模)
- ・地域特性(立地、街中か山間地か)
- ・住宅特性(戸建てか集合住宅か)
- ・人口構成(高齢化率&単身世帯率)
- ・成り立ち(設立年、歴史) など

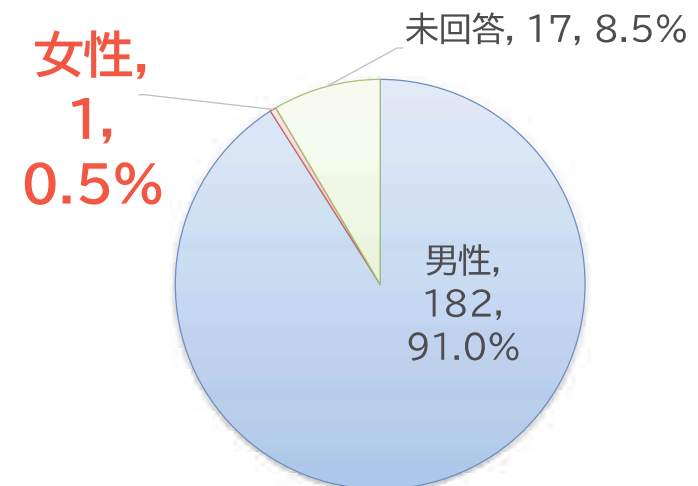
「画一的・一律」は限界

自分の地域にあった
「取組・改善」が重要

15

区長の性別

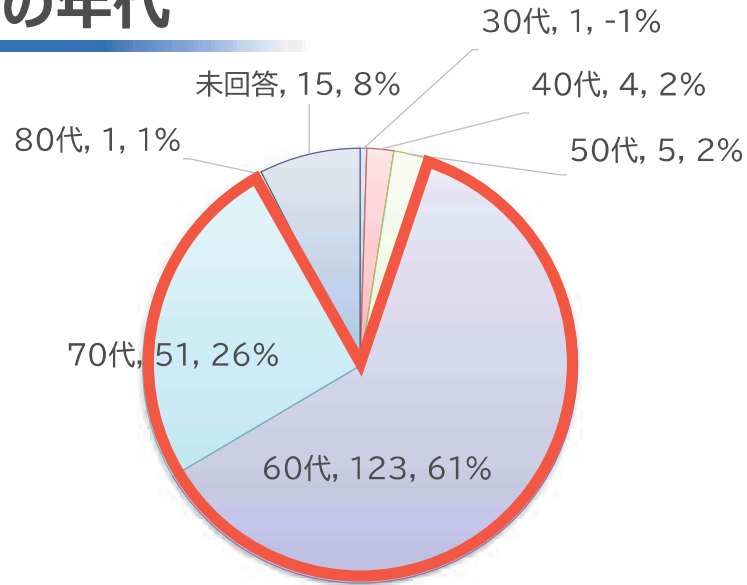
区長について



ほぼ全員男性 女性はたったの1名

16

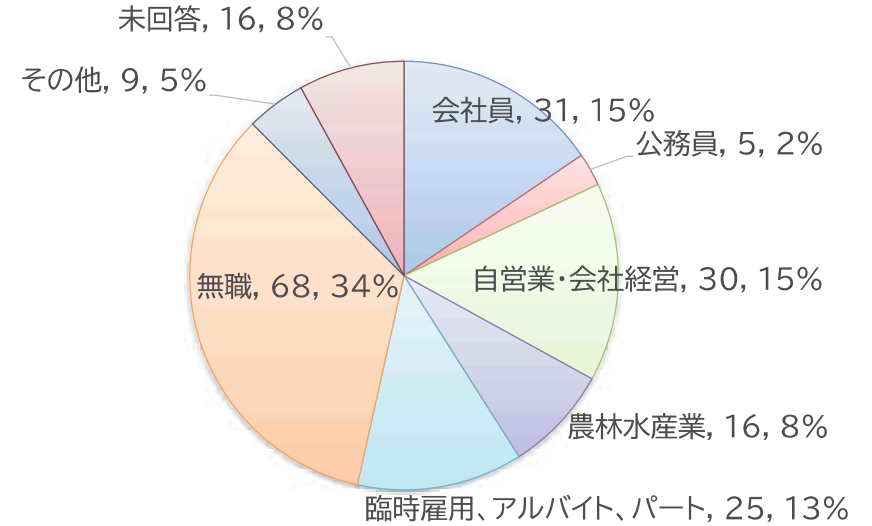
区長の年代



約9割が60～70代

17

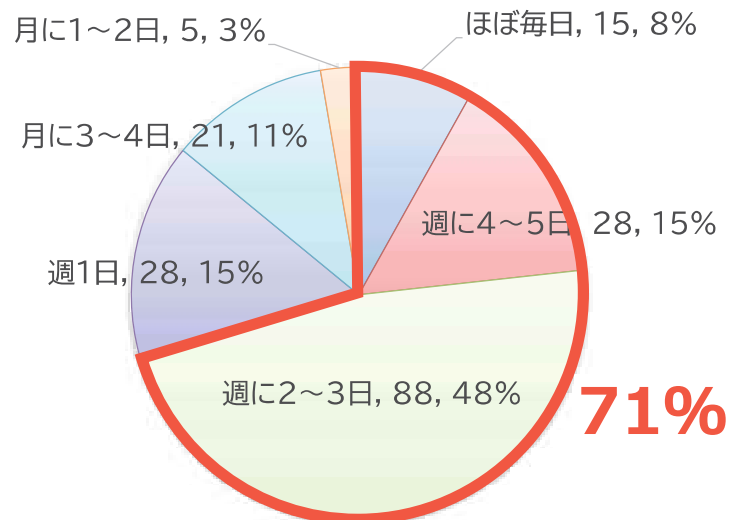
区長の職業



無職が一番多く、会社員と公務員はあわせて17%

18

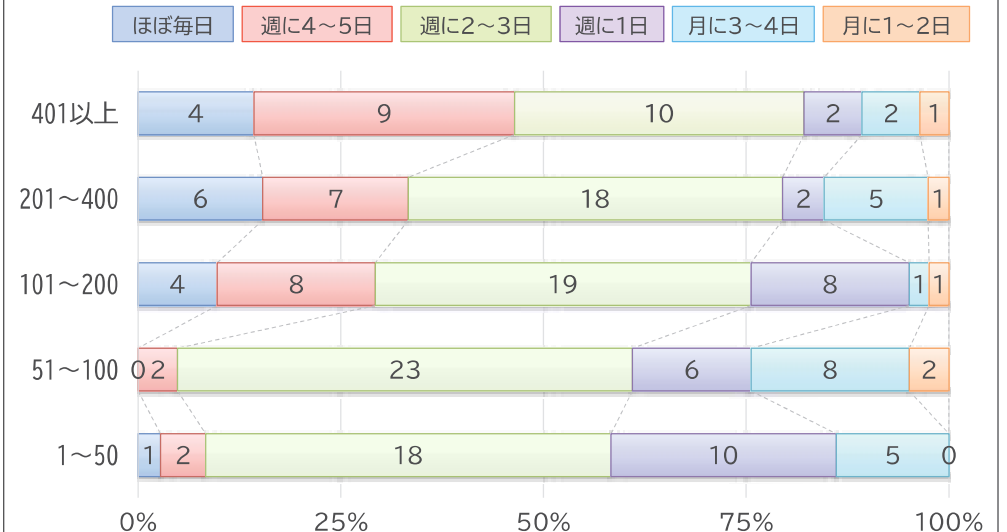
区長の活動日数



週2～3日以上が約7割

19

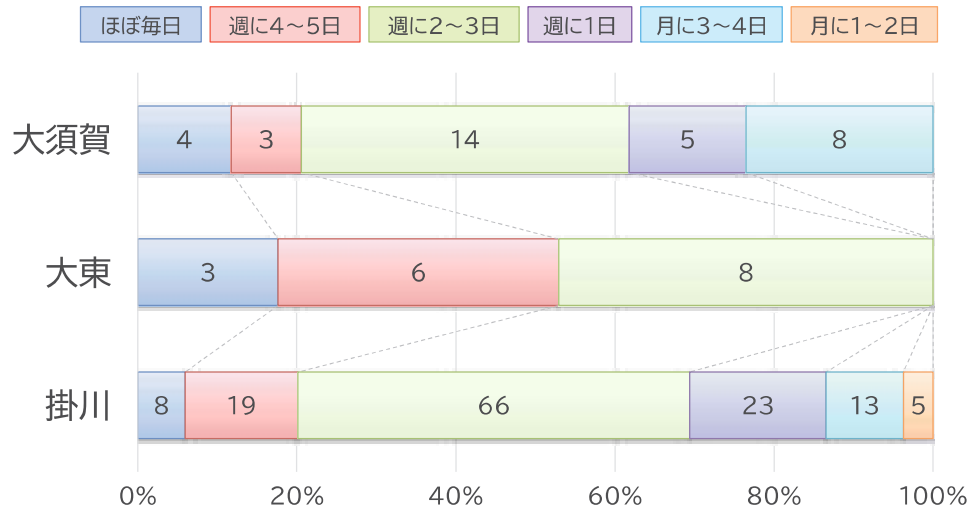
規模(世帯数)×活動日数(割合)



規模が大きいほど区長の活動日数が増える

20

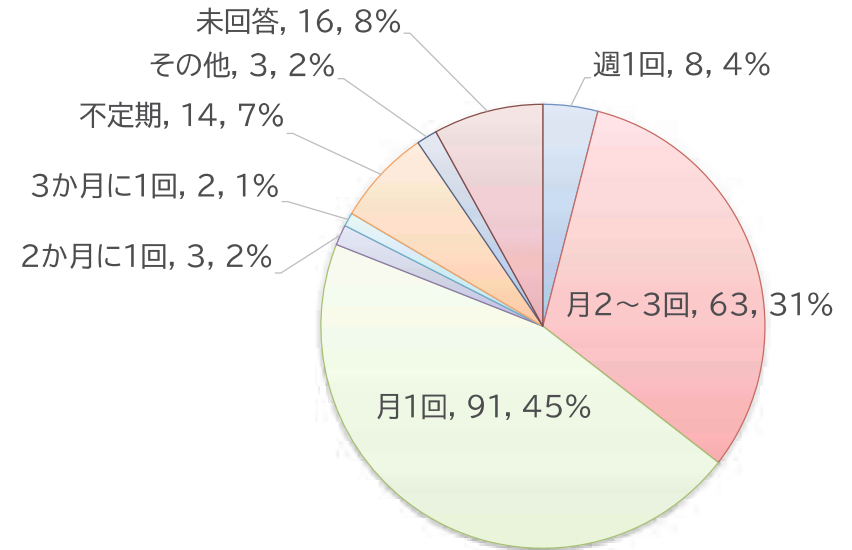
地区×活動日数(割合)



大東地区は活動日数が多い傾向

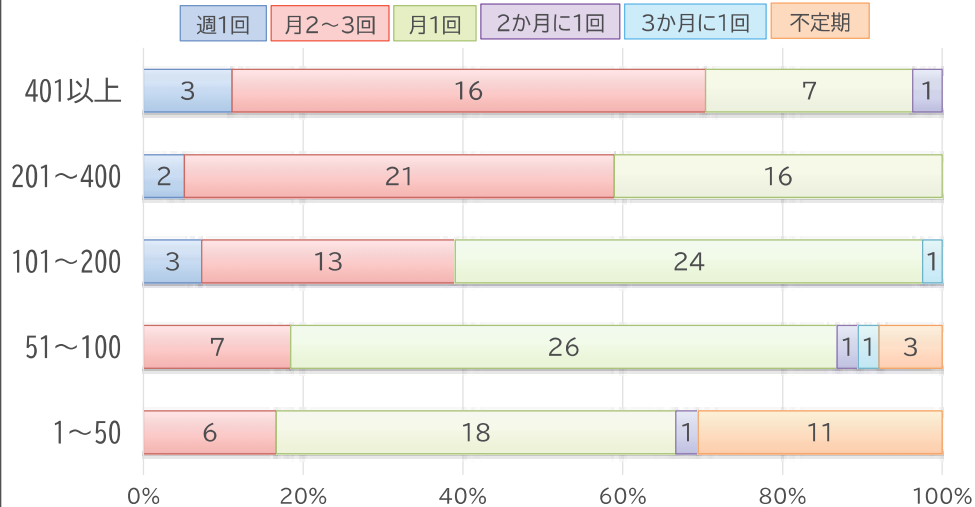
21

定例会議の回数



22

規模(世帯数)×定例会の回数(割合)



世帯数が増えるほど定例会が多い

23

自治区長の傾向①

- ほぼ全員が男性
- 多くが60~70代
- 退職者・自営、経営者が主に担う
- 半数が週2、3日以上活動
- 規模の大きな自治区長はさらに忙しい

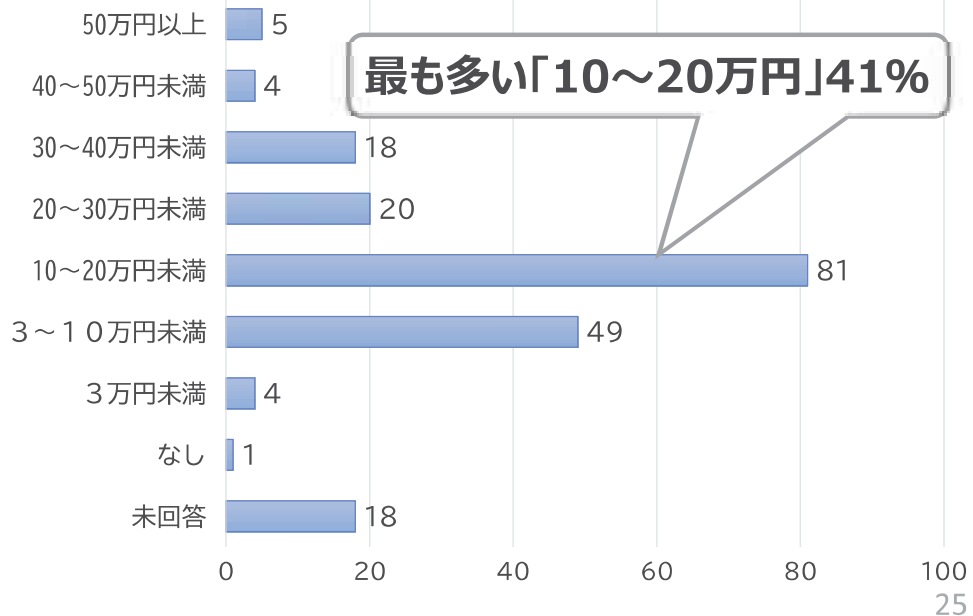


誰でもできるわけではなさそうだ

24

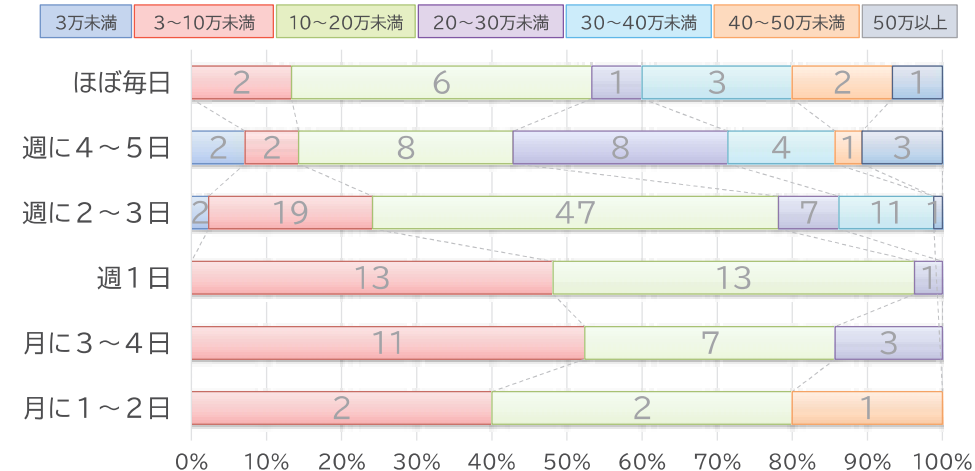
区長の手当て

区長の手当て



25

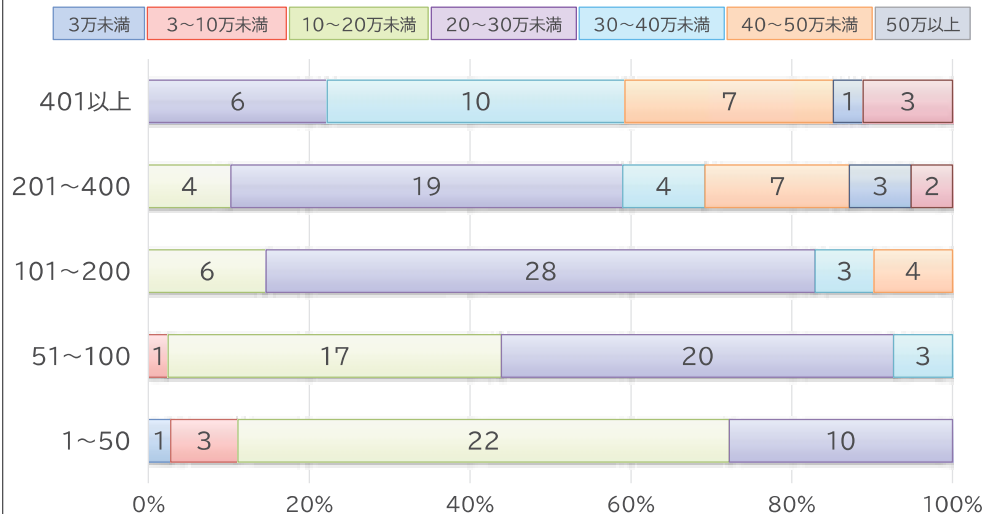
従事日数×区長の手当て(割合)



従事日数が増えるほど区長手当が増える傾向
「ほぼ毎日」でも「年額20万未満」が約半数

26

規模×区長の手当て(割合)



規模が大きくなるほど手当が増える傾向

27

例)年間20万円の場合

ひと月およそ16,700円

||

1ヶ月18時間程度

(静岡県最低賃金913円で換算)

||

仕事量：毎週4時間半程度

28

自治区長の傾向②手当

- 活動日数が多いと高くなる
- 地区の規模が大きいと高くなる
- 多くはない
(ボランティアのような地区もある)



金銭的に誰でもできるわけではなさそう



そもそも、できる人が限られるのでは？

29

① 増える高齢者は75歳以上 65～74歳は大きく減ります

区長の担い手

【掛川市の人口予測】

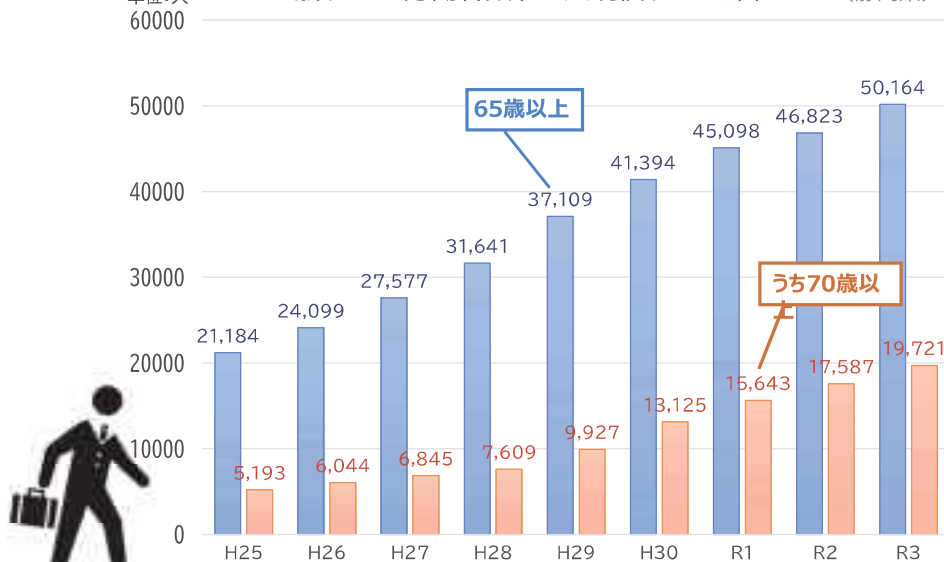
H30社人研推計値データより

年	65歳以上	65～74歳 地域活躍世代	75歳以上
2015年	29,202	14,589	14,613
2030年	34,346	13,467	20,879
		↓ - 1,122	↑ + 6,266

30

② 65歳以上も元気に働きます！

単位:人 65歳以上の労働者数(31人規模以上企業) (静岡県)



令和3年「高齢者の雇用状況」集計結果から
厚生労働省静岡労働局発表表(R3.1.8)

31

③ 小売業・サービス業従事者の増加

静岡県で医療・福祉に従事する人の数

【静岡県の医療・福祉従事者数の推移】

単位:人 250000 2010 2015年 2020年 国勢調査より



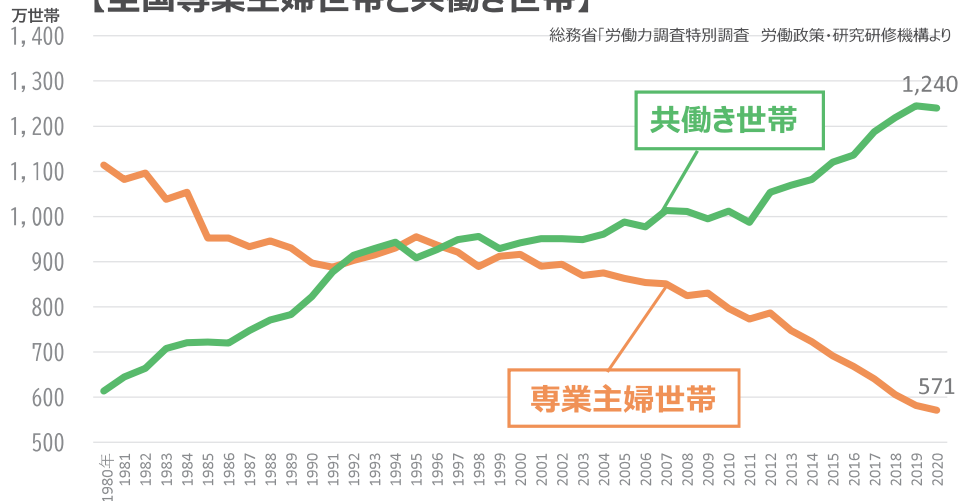
10年で4万人増加

医療・福祉従事者が10年で4万人増加

32

④ 共働き世帯の増加

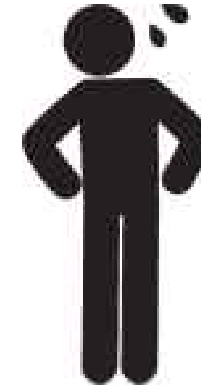
【全国専業主婦世帯と共働き世帯】



若い世代も仕事と子育てに追われる日々

33

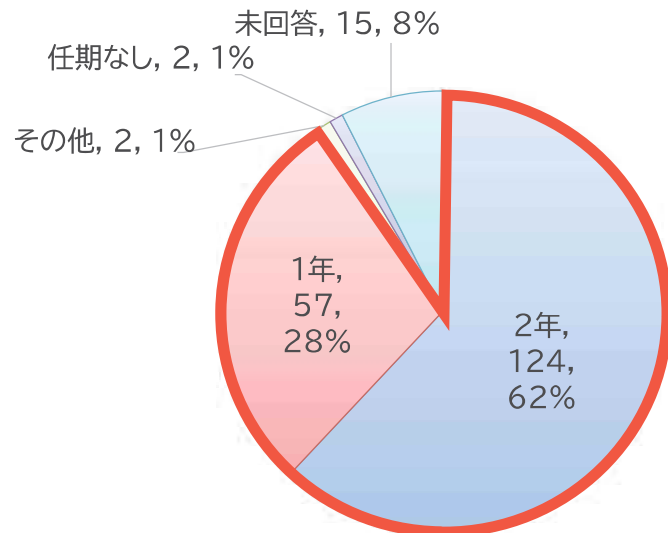
地域活動の担い手は減少する



34

自治区長の任期

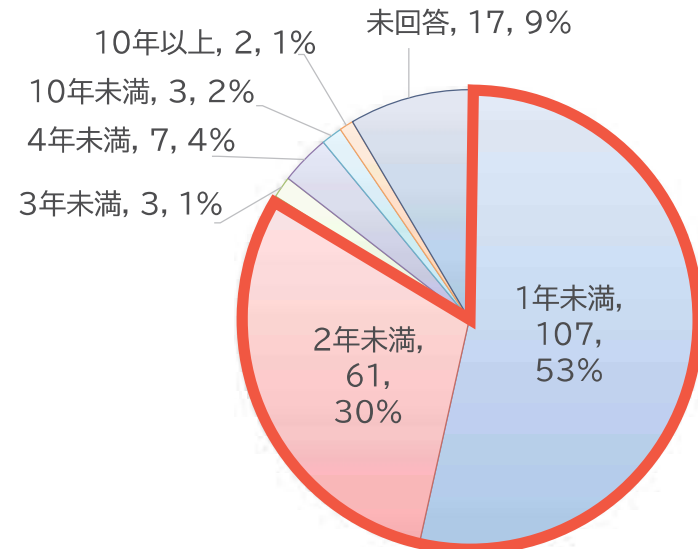
区長の任期・選出



「1年」「2年」で91%→頻繁に交代する

35

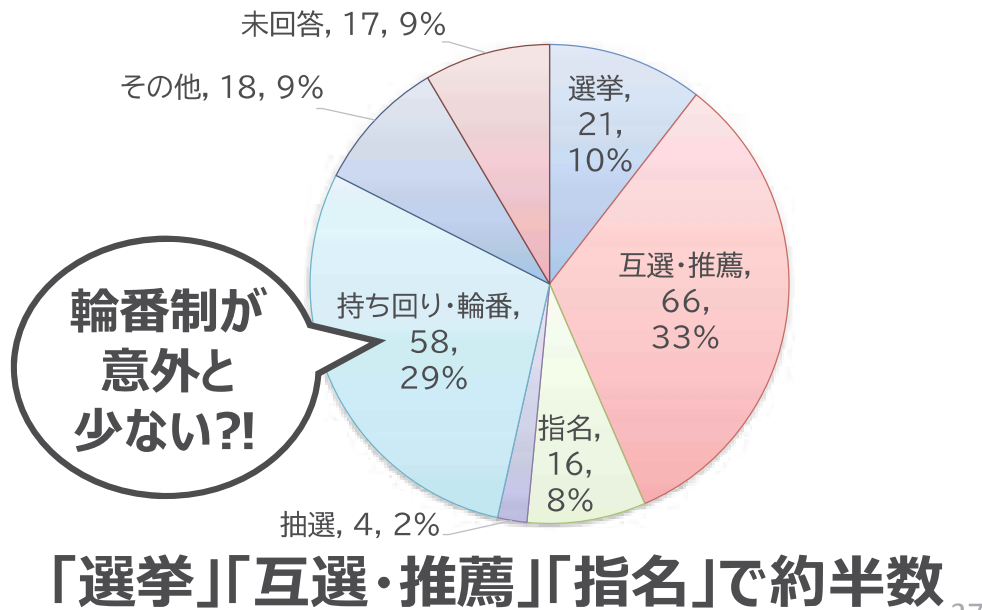
自治区長の在職年数



「2年未満」が8割以上

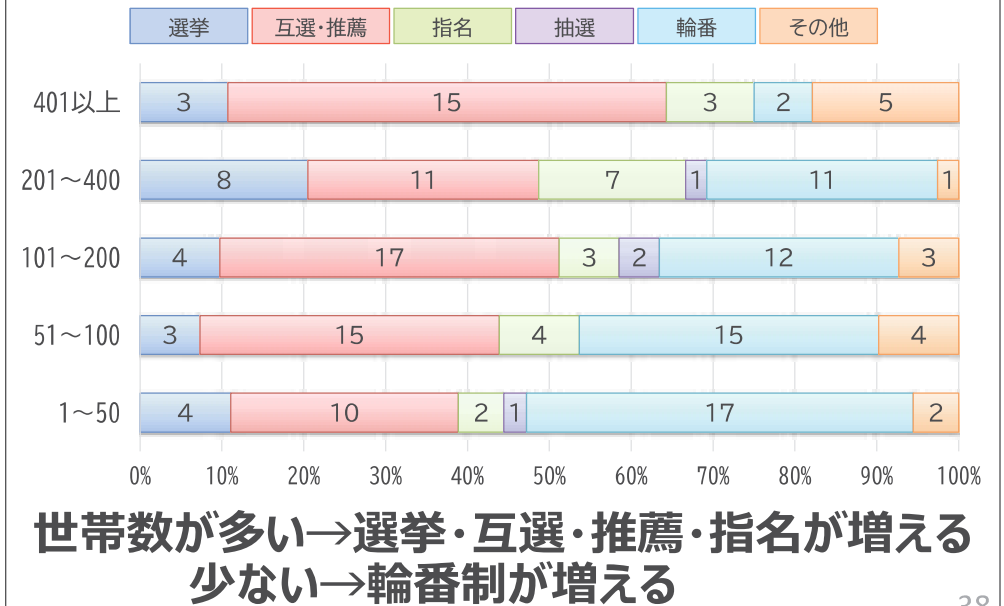
36

自治区長の選出方法



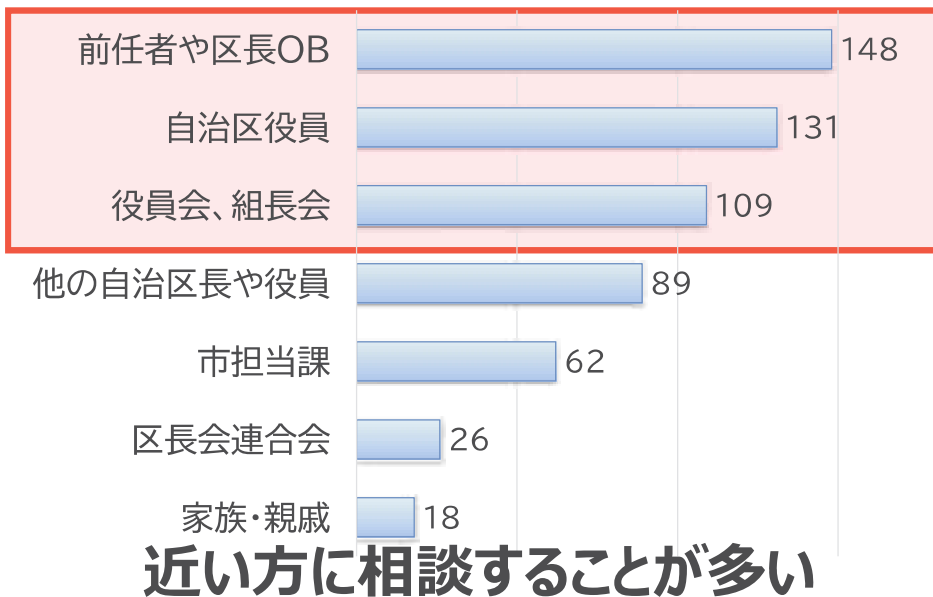
37

規模×選出方法(割合)



38

誰に相談していますか？



39

自治区長の傾向③期間・選出

- 任期が1~2年で短い
- よって在職年数も短そうだ
- 規模が小さいと輪番制・一年交代が増える



- ・活動の継続が難しい
- ・計画の変更が難しい
- ・大きな計画の実施が難しい
- ・毎年のように選出する必要がある
- ・毎年引き継ぎ作業が発生し負担になる

40

改善へ向けて (例)

区長が複数年続けられるようにする

- 一極集中の解消(仕事の分担、人を増やすなど)
- 負担の軽減(デジタル化、作業の分担、委託など)

任期1~2年でも活発に活動できるようにする

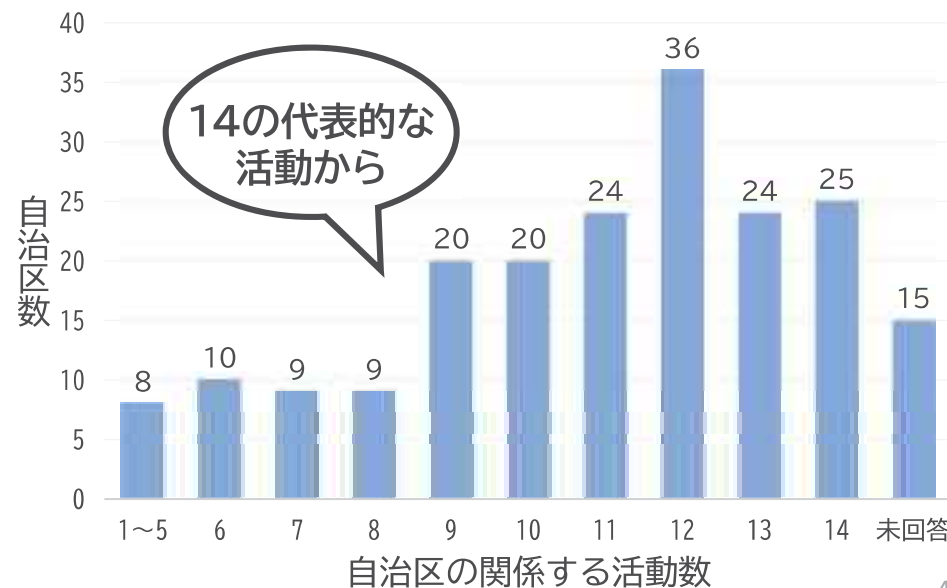
- 継続できる人と併用する
- 引継ぎ書やマニュアルで誰でもやりやすくする
- 長期計画をたてる など

「機能」を残せるようにする

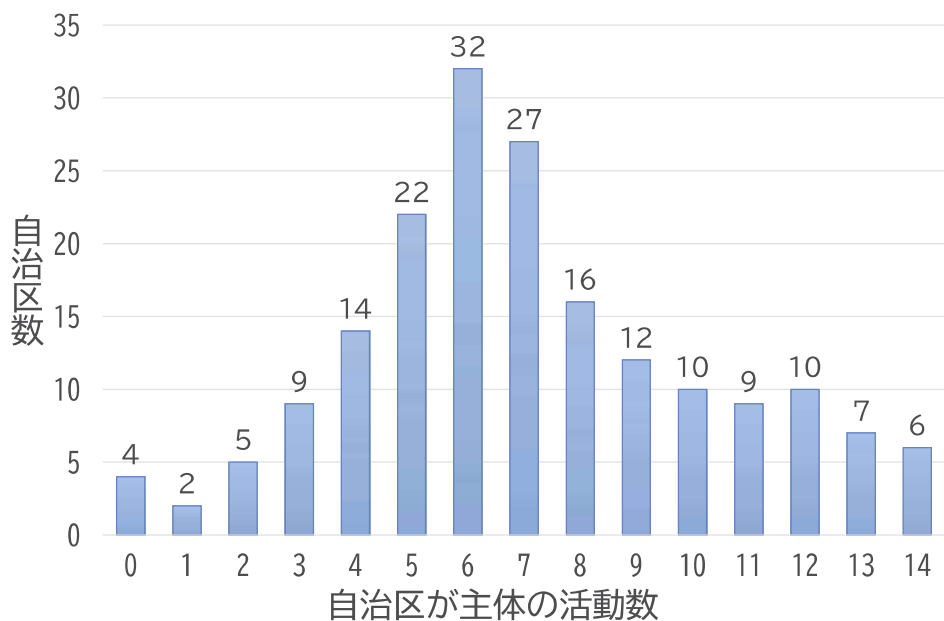
- しくみを作る
- マニュアル化・見える化する
- 誰でもできるようにする など

活動項目の数(自治区が関係する項目の数)

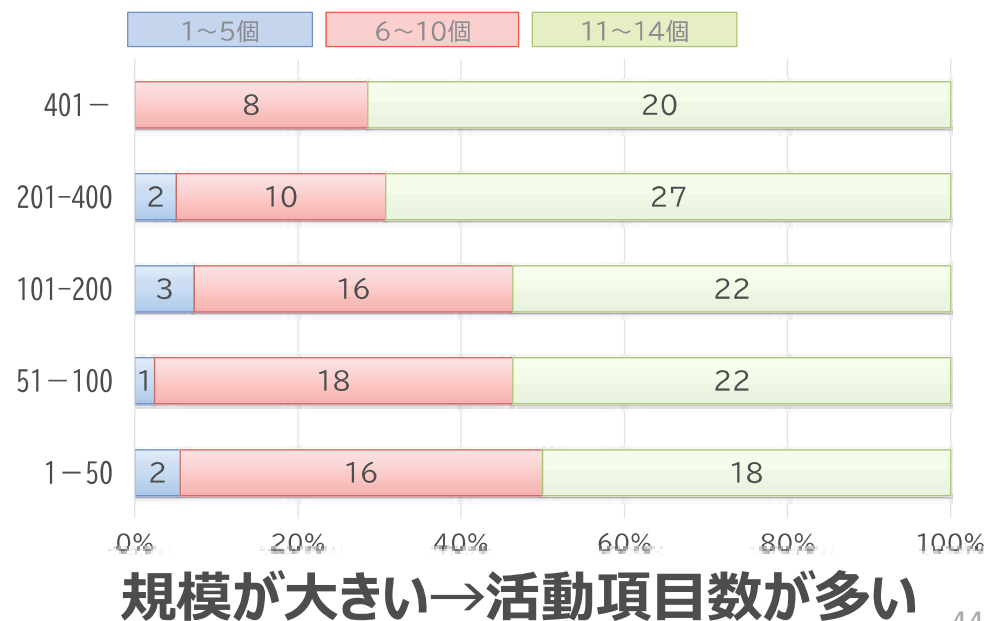
2.自治区の活動



活動項目の数(自治区が主体の数)

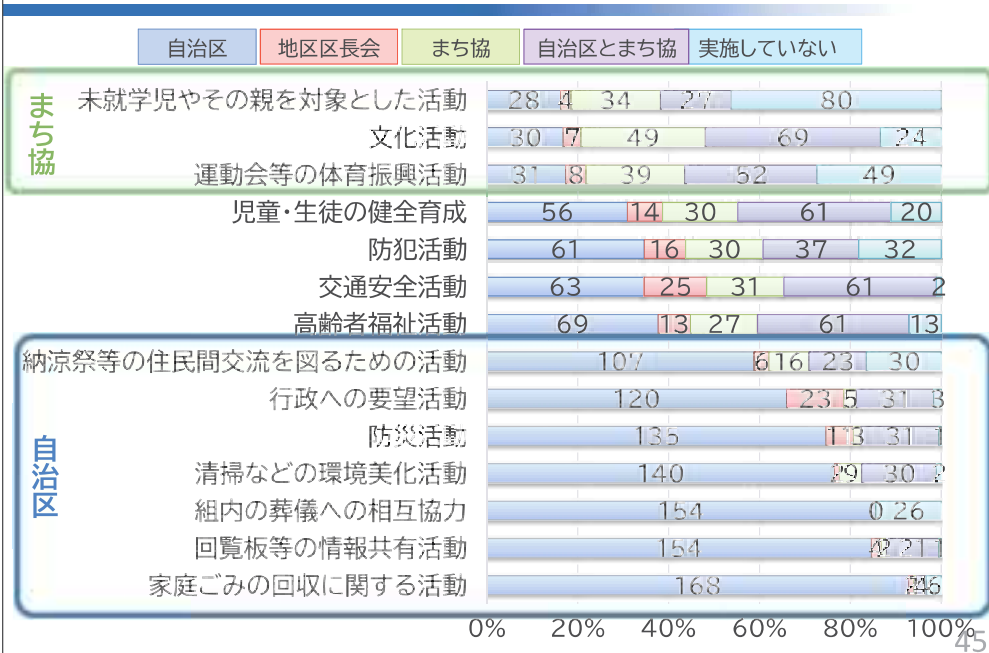


活動数×規模(割合)

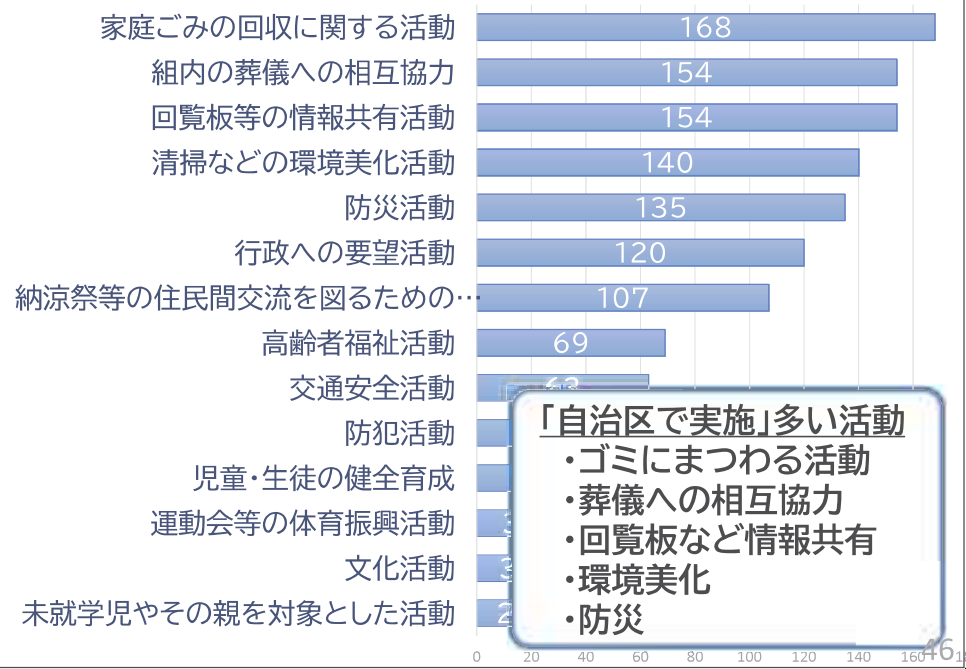


規模が大きい→活動項目数が多い

活動の主体(自治区数)



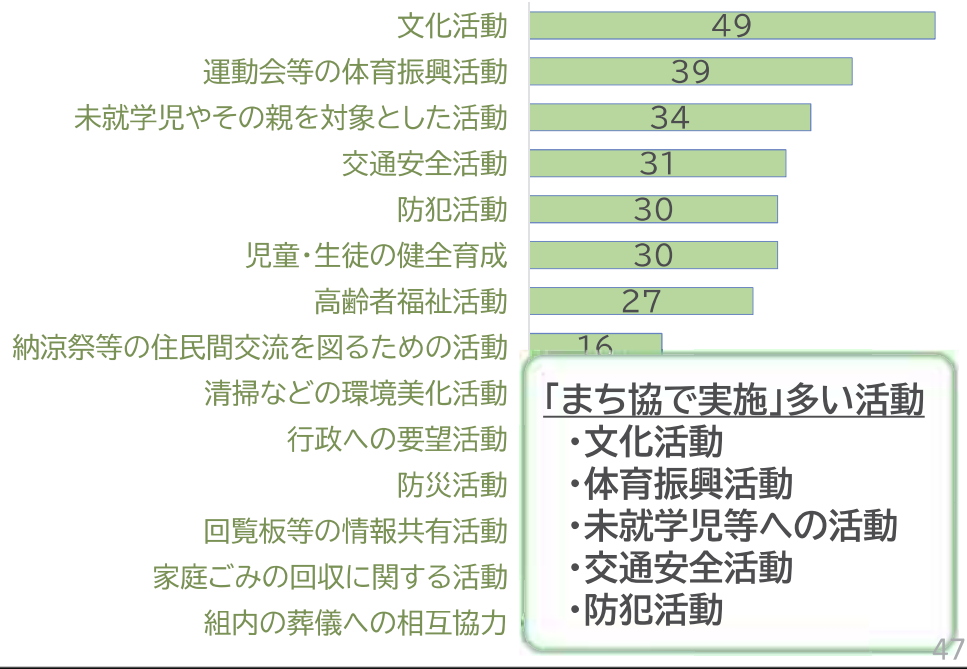
【「自治区が主体」の活動】



「自治区で実施」多い活動

- ・ゴミにまつわる活動
- ・葬儀への相互協力
- ・回覧板など情報共有
- ・環境美化
- ・防災

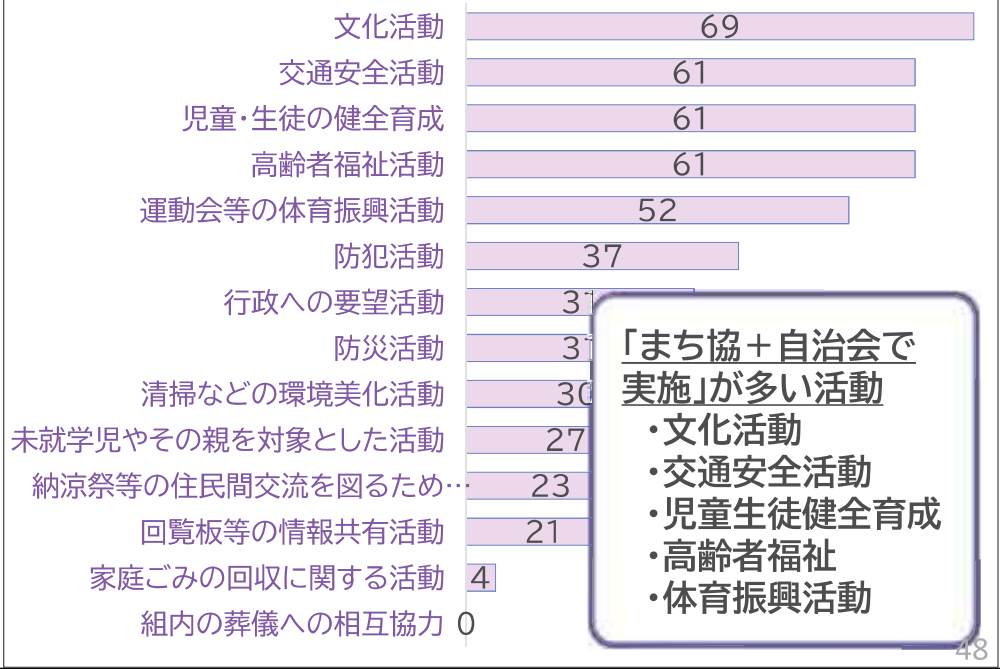
【「まち協が主体」の活動】



「まち協で実施」多い活動

- ・文化活動
- ・体育振興活動
- ・未就学児等への活動
- ・交通安全活動
- ・防犯活動

【「まち協と自治区が主体」の活動】



「まち協+自治会で実施」が多い活動

- ・文化活動
- ・交通安全活動
- ・児童生徒健全育成
- ・高齢者福祉
- ・体育振興活動

地域活動の傾向

- 「自治区」の活動の回答が多い
- 「自治区」はごみ・環境美化、葬儀など生活に密着した活動内容が多い
- 「まち協」は文化・体育振興など
- 「自治区」と「まち協」連携も必要

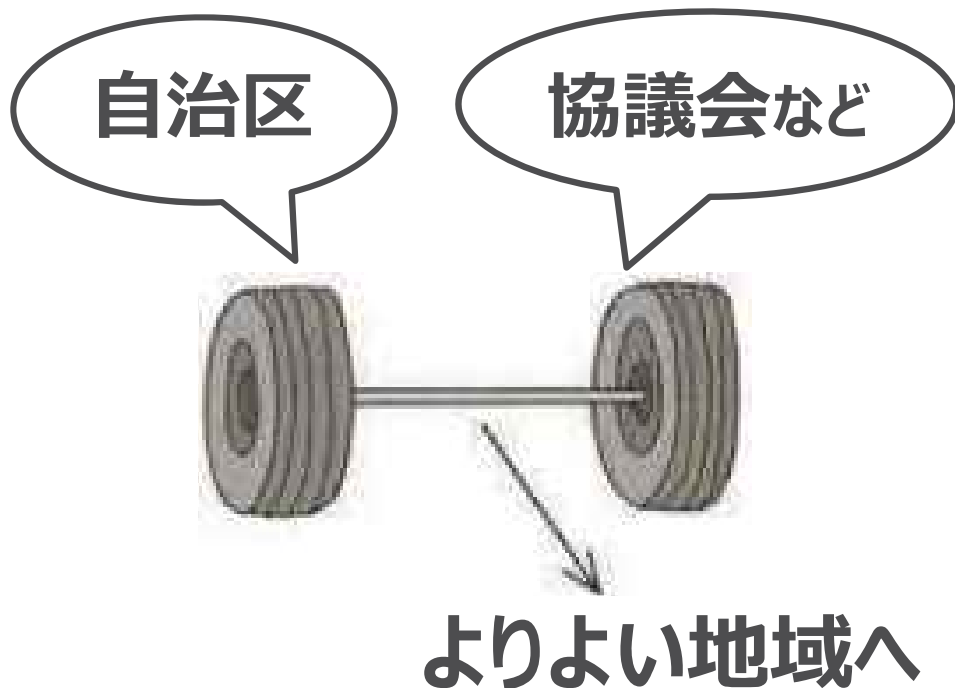
重要なのは「機能」

49

「自治区主体」の活動 と 「まち協主体」の活動

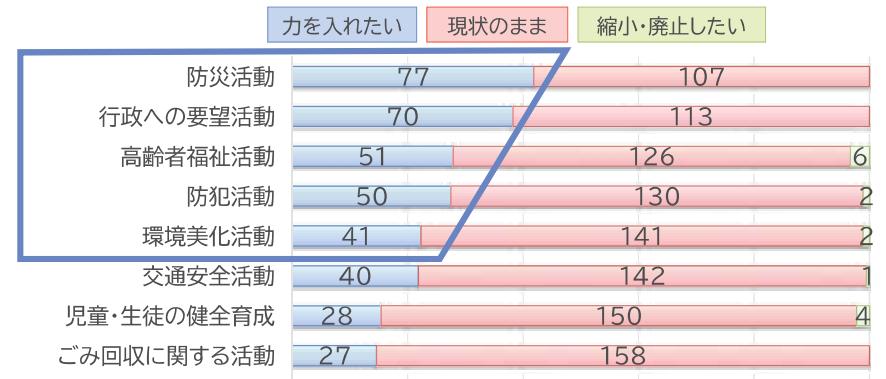
- 地域の実情を考慮する
- 規模や活動の適正による
- 「自治区」と「まち協」で検討

50



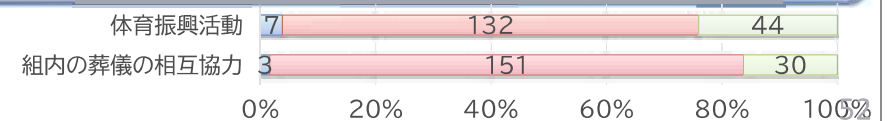
51

今後、各活動をどうしていきたいか

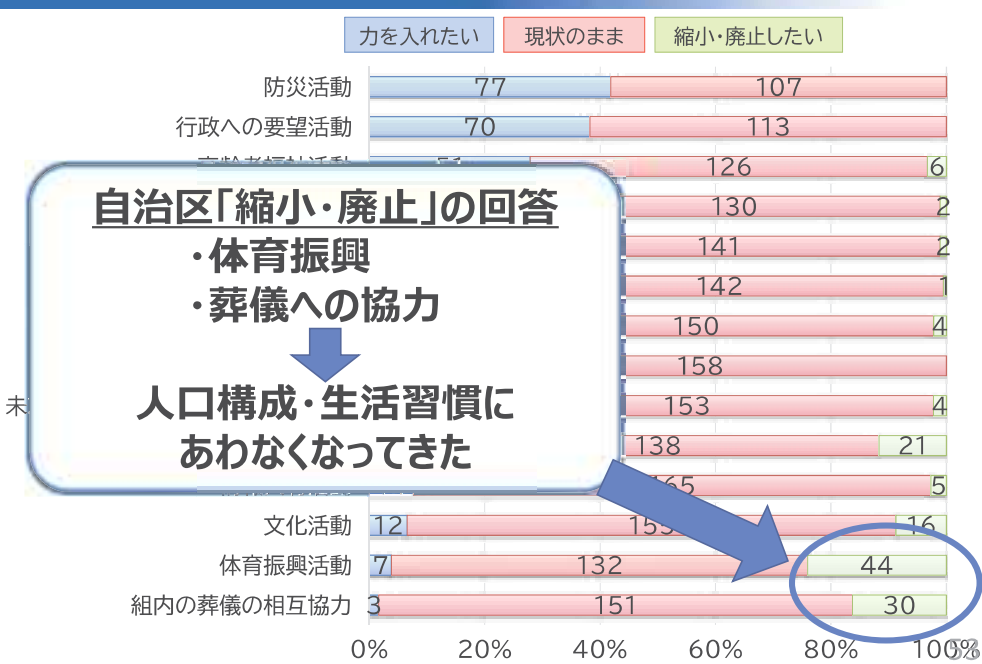


今後力を入れたい活動 TOP 5

「防災」「行政へ要望」「高齢者福祉」「防犯」「環境美化」



今後、各活動をどうしていきたいか



活動の改善へ向けて (例)

「力を入れる活動」と「縮小する活動」
 「自治会主体の活動」と「まち協主体の活動」



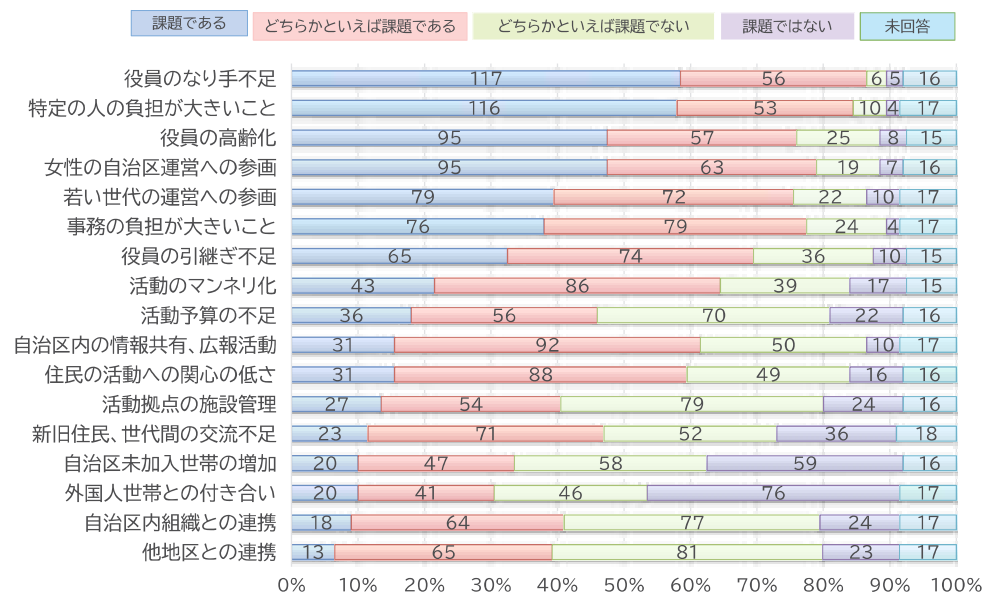
- ・地域の実情を考慮
- ・規模と活動の適正
- ・「自治会」・「まち協」・「地区区長会」で検討



より効果の高い地域活動へシフト

活動の課題(自治会数)

3. 自治会の課題



【上位の課題】

- 1 役員のなり手不足 △
- 2 特定の人の負担 ○
- 3 役員の高齢化 △
- 4 女性の自治会運営への参画 ◇
- 5 若い世代の運営への参画 ◇
- 6 事務負担が大きい ○
- 7 役員の高齢化 △
- 8 活動内容のマンネリ化 ◇

△ 担い手問題
 ○ 負担の問題
 ◇ 住民の参加



時代が変化



自治区活動はそのまま

- ・担い手不足
- ・参加者不足
- ・活動の負担

地域活動 課題の相関関係

担い手不足

- ・高齢者も働く
- ・少子高齢化
- ・働き方の変化 など

参加者不足

- ・目的が不明確
- ・少子高齢化
- ・情報共有の不足 など

活動の負担

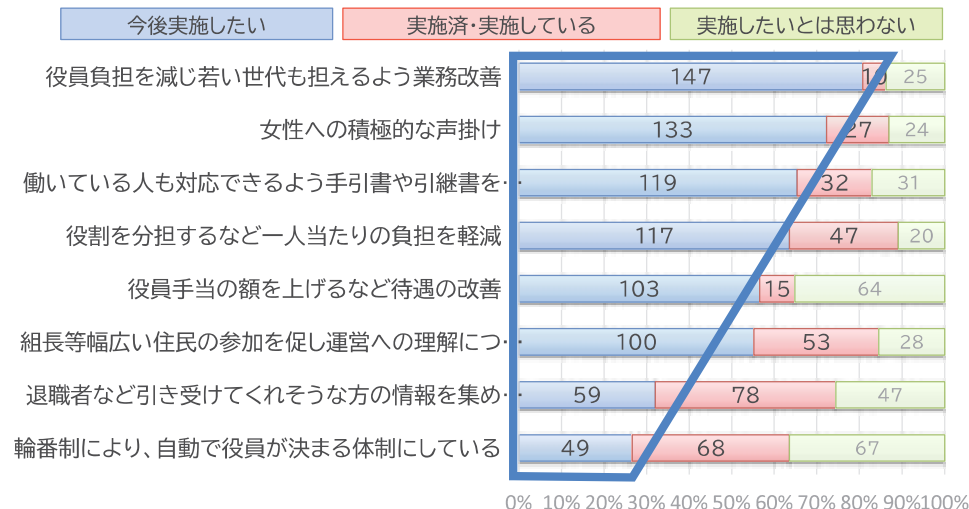
- ・現状との乖離
- ・見直されていない
- ・人手不足 など

地域活動のらせん下降



担い手確保の取組(自治区数)

①担い手問題



半数以上が「負担軽減」など改善に取り組みたい

担い手不足の改善へ向けて（例）

- ・役員の負担を軽減する
- ・女性の担い手を増やす
- ・会社員でもできるようにする
- ・金銭的な負担を軽減する
- ・規模を検討する など

61

【上位の課題】

- 1 役員のなり手不足
- 2 特定の人負担
- 3 役員の高齢化
- 4 女性の自治区運営への参画
- 5 若い世代の運営への参画
- 6 事務負担が大きい
- 7 役員の引継ぎ不足
- 8 活動内容のマンネリ化

担い手問題
負担の問題
住民の参加

62

②負担の問題

なぜ負担が生じるのか？

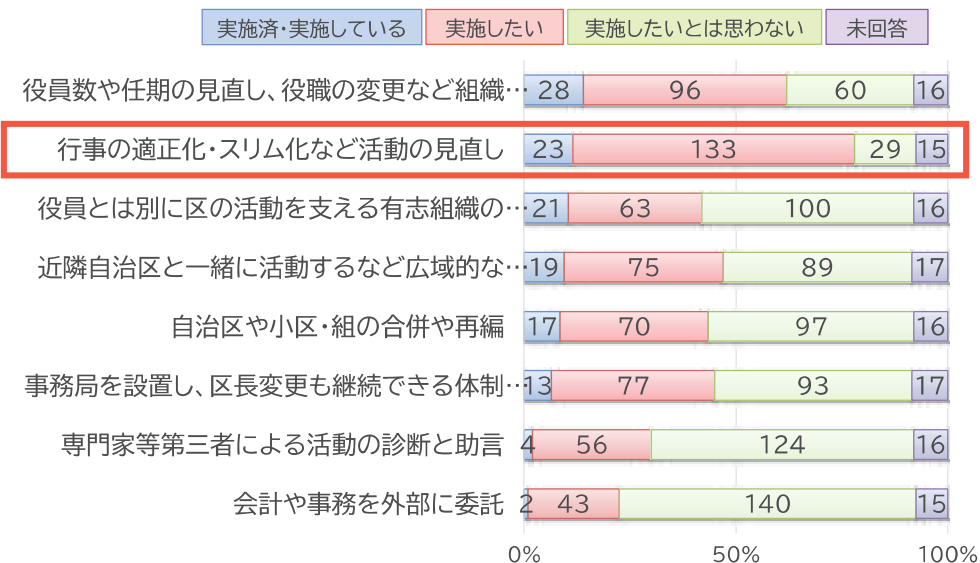
時代が変化

自治区活動はそのまま

見直す必要性

63

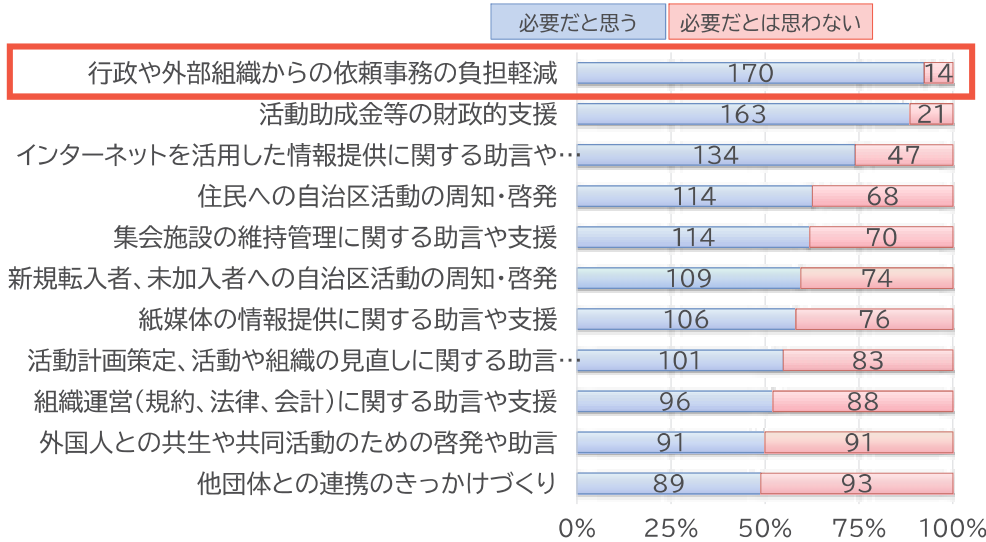
自治区活動の見直し(自治区数)



まずは、自分の区でできることを見直すことから

64

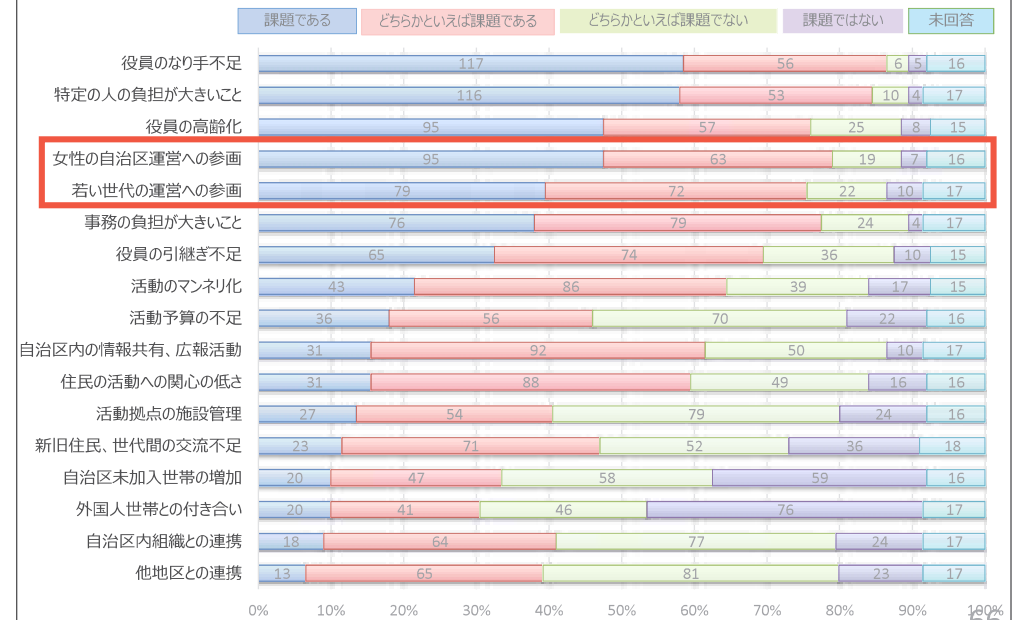
自治区が求める行政や外部からの支援(自治区数)



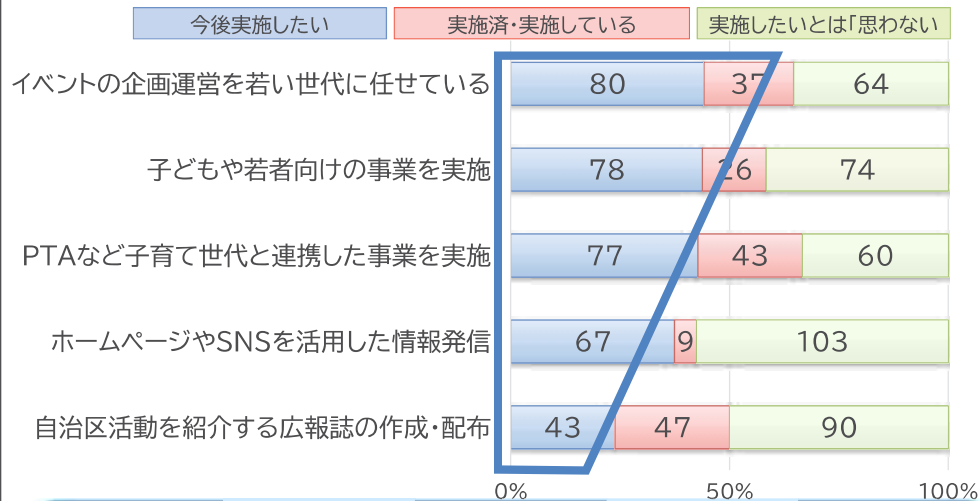
最も多いのは「行政や外部組織からの依頼の負担軽減」

自治区活動の課題(自治区数)

③参加・参画



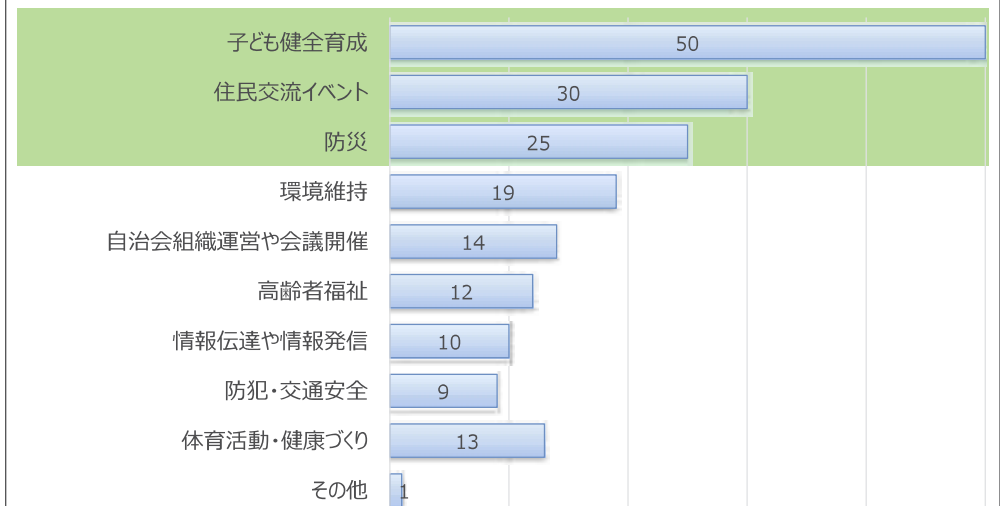
活動への関心を高める取組(自治区数) 若い世代の参加



「若い世代・子育て世代の関心を高める取組」
実施したい自治区が多い

どのようなことで女性・若い世代の声を反映するべきか？

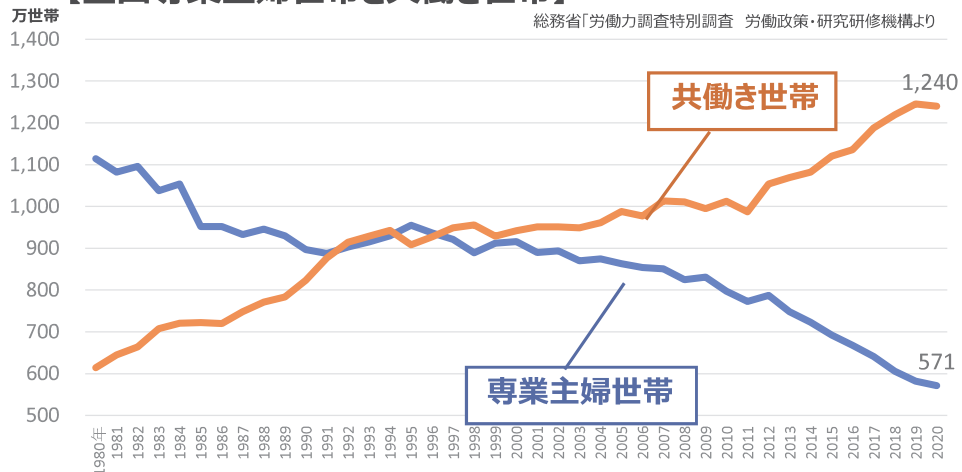
【10～30代の回答】



若い世代：子ども・交流イベント・防災

【共働き世帯の増加】

【全国専業主婦世帯と共働き世帯】



専業主婦の世帯が減り、共働き世帯が増加
若い世代も仕事と子育てに追われる日々 69

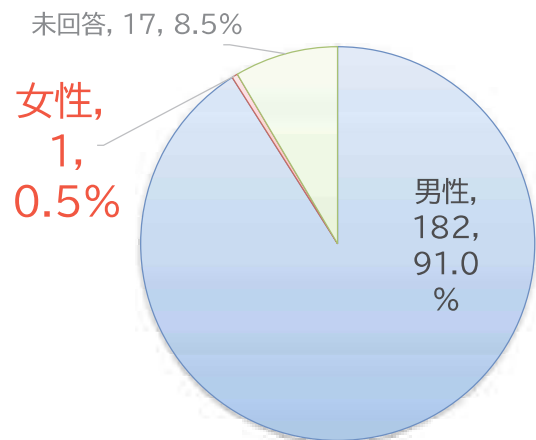
若い世代の
「働き方」
「ライフスタイル」
「合理的思考」
「デジタル使用」



若い世代の理解を

区長の性別(自治区数)

女性の参加



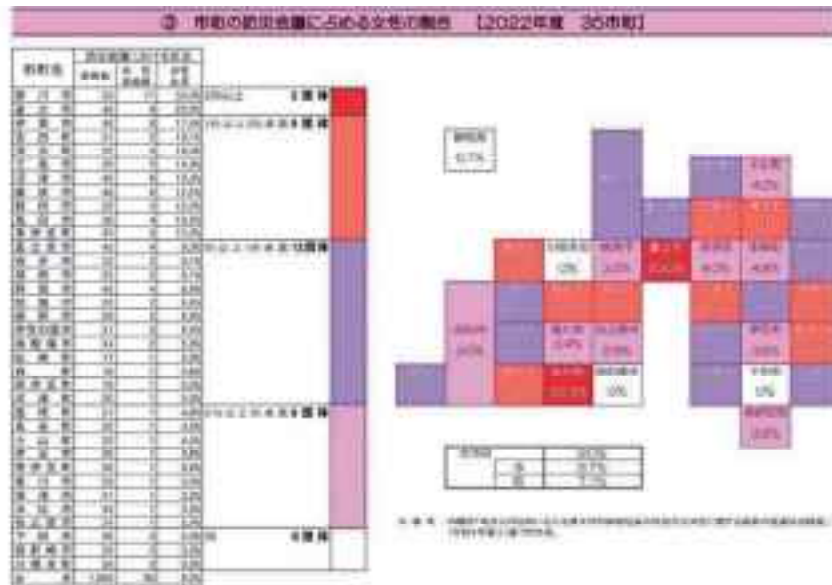
ほぼ全員男性!! 女性は1名のみ

【自治会長に占める女性の割合】



県全体では2.4% 掛川市0.7%
女性の自治会長0 も16市町

【防災会議に占める女性の割合】

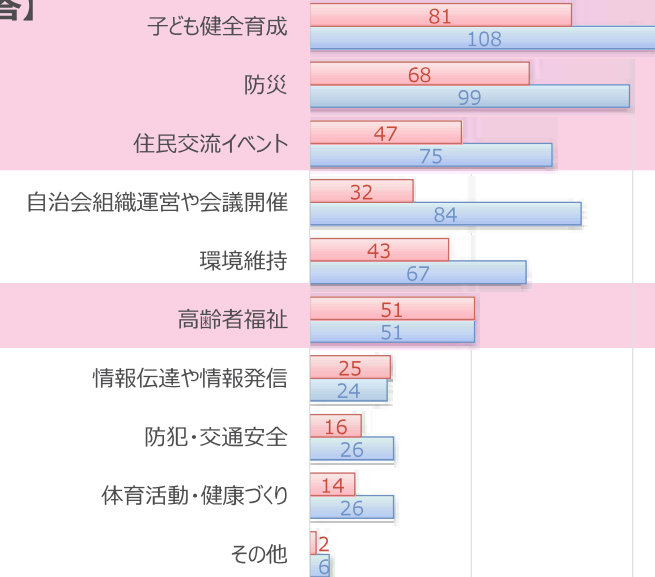


掛川市33.3% → 県内市町でNo. 1

73

どのようなことで女性・若い世代の声を反映するべきか？

【男女別回答】



女性：子ども・防災・高齢者福祉・交流イベント

74

女性の参画による変化

- ・担い手の対象が大幅に増える
- ・会議が活発になる
- ・住民が相談しやすい
- ・女性が入ると子どもや高齢者の参加も増えやすい
- ・女性はフットワークが軽い



75

女性登用のコツ

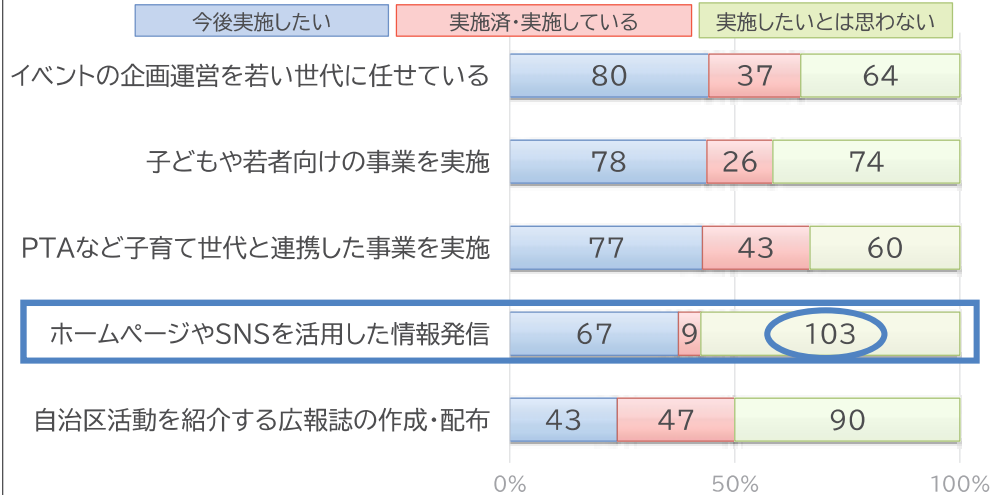
- × 個人の問題
- 周囲・家族の理解が必要 = 丁寧な説明
- × 女性なら誰でもいい
- その方の経験を生かせるような役割
- × ひとり
- 複数で
- × 決まりにあわせる
- 無理はしない
- 人を増やすなど休めるようにする



76

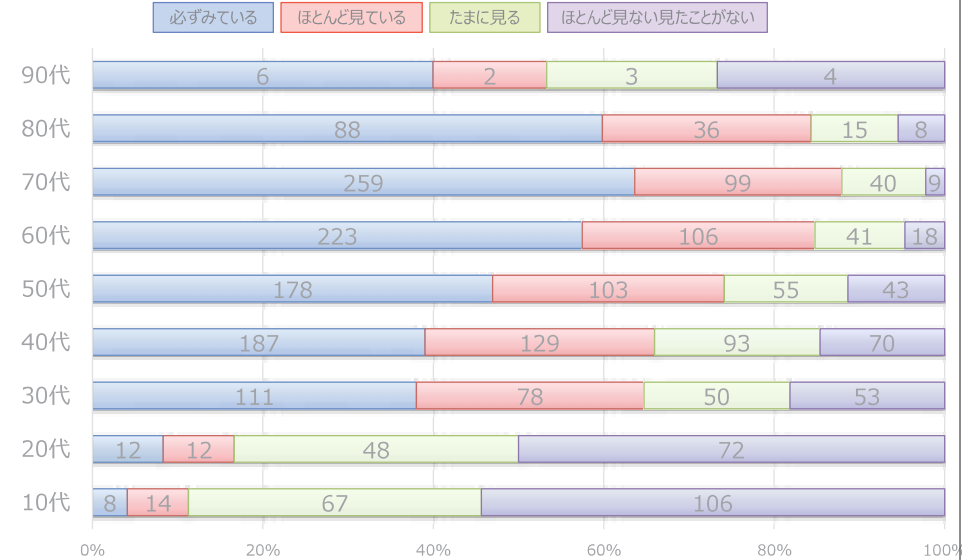
関心を高める取組(自治区数)

情報伝達



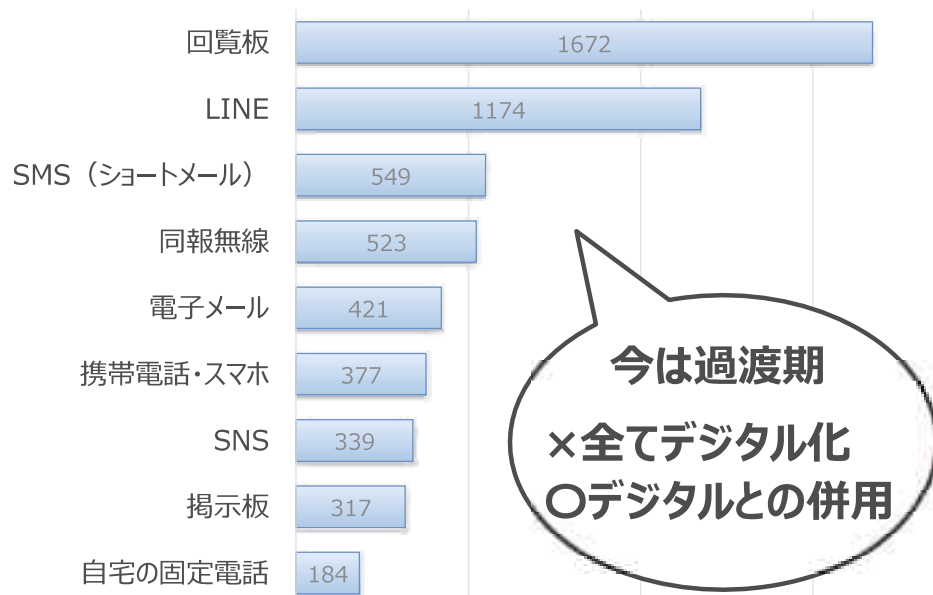
「SNSやHPの活用」
IT活用による情報発信に抵抗もある？

回覧板を見ているか？

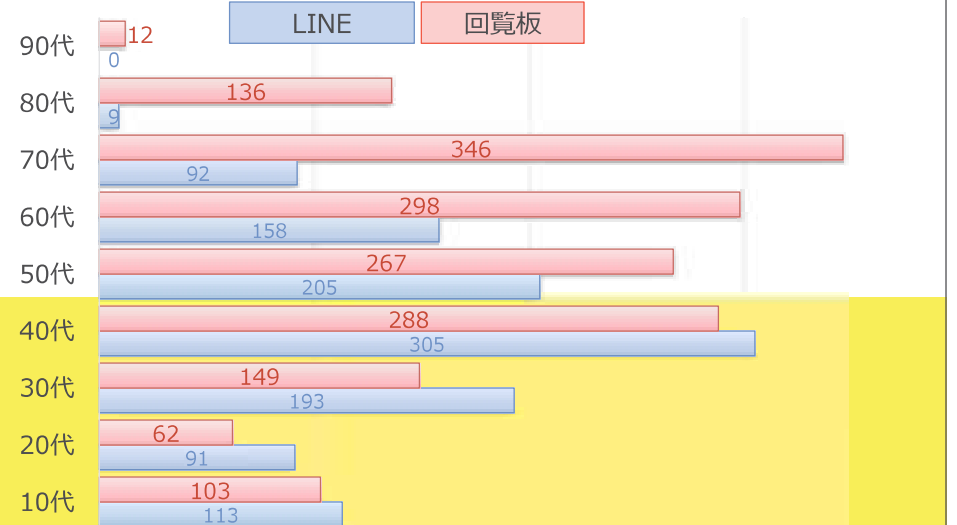


若い人ほど回覧板は見っていない

連絡・情報伝達の手段、何がいい？



連絡・情報伝達の手段、何がいい？

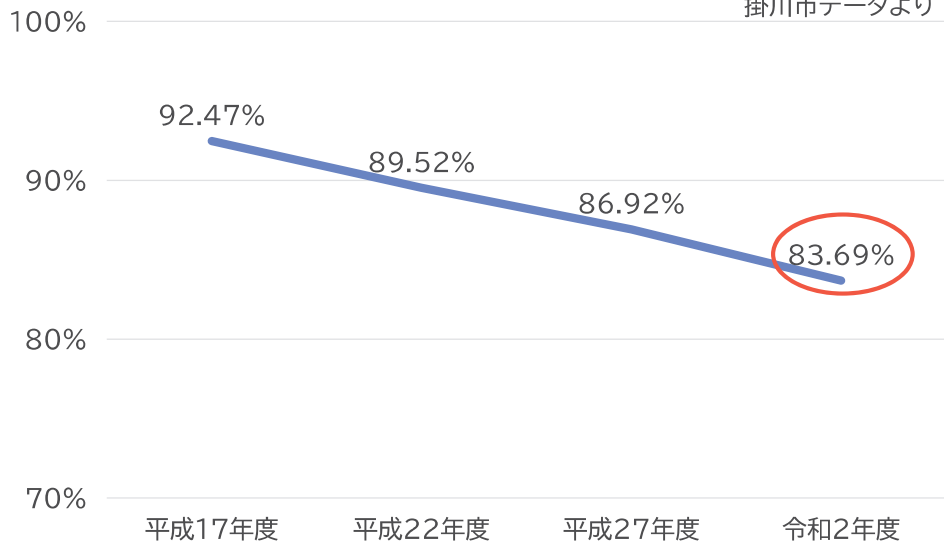


40代以下は回覧板よりLINE

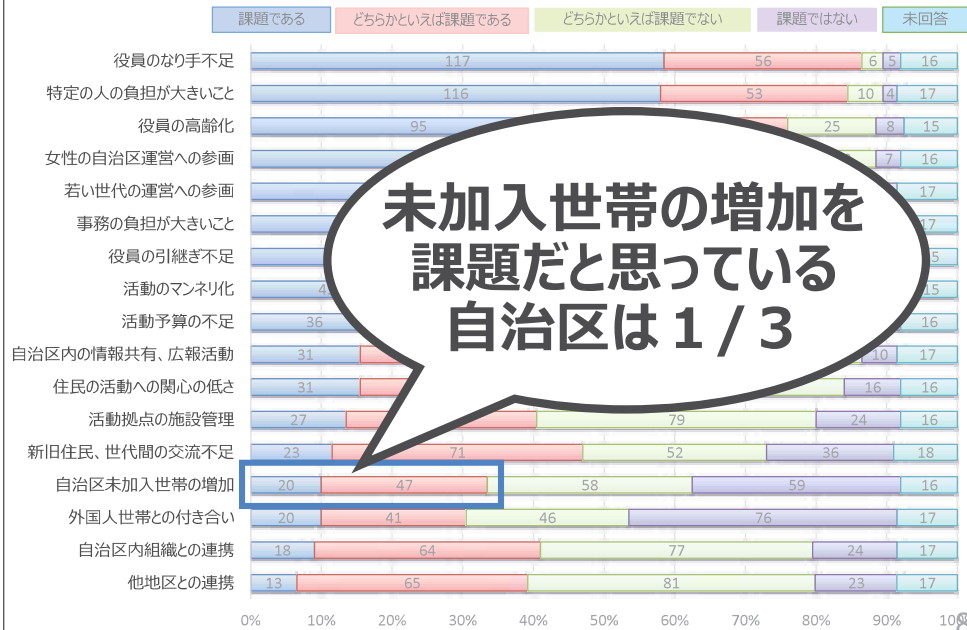
掛川市の自治区加入率の推移

加入促進

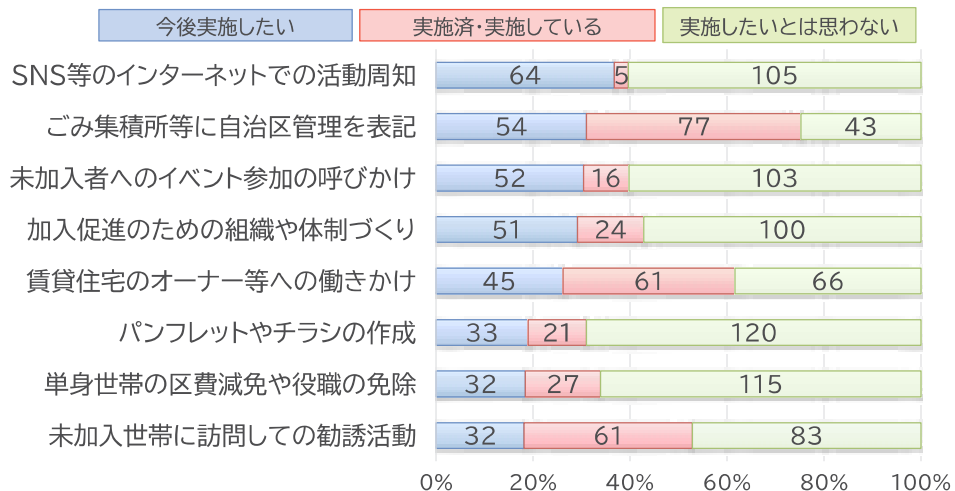
掛川市データより



活動の課題(自治区数)

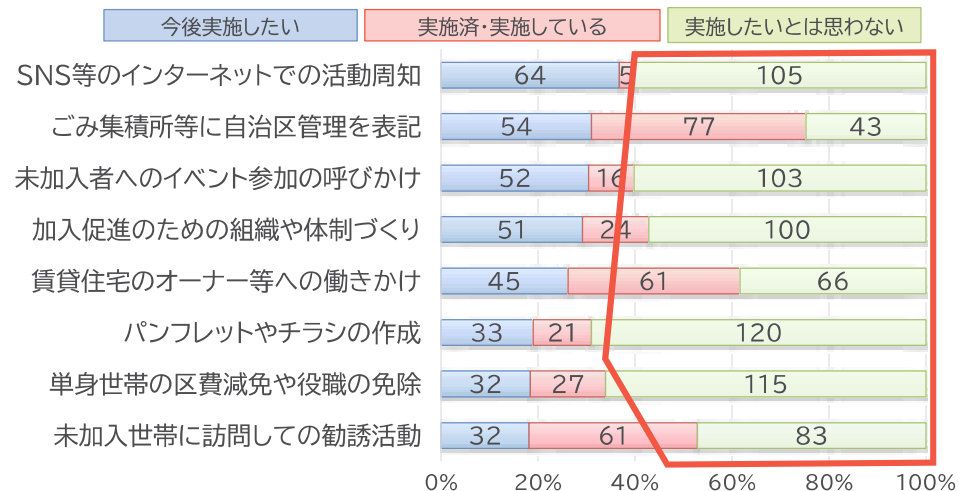


未加入世帯への参加促進活動(自治区数)



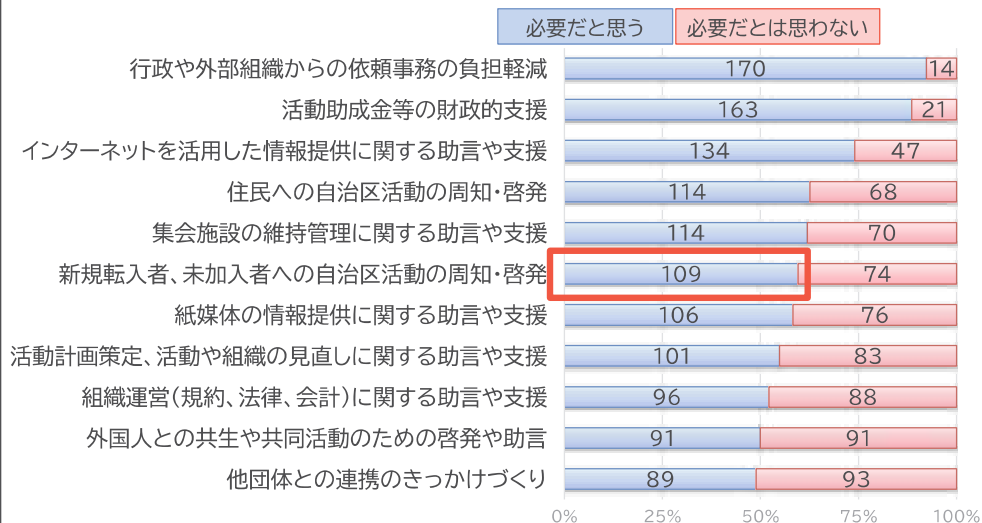
「未加入世帯への訪問・勧誘」は意外と少ない
→「実施したい」は約2割→「実施している」は約3割

未加入世帯への参加促進活動(自治区数)



加入促進にはあまり積極的ではない

行政や外部からの支援(自治区数)



半数以上が「行政に加入促進の周知啓発」

85

自治会未加入者についての傾向

- 全ての自治会の課題ではない
- 未加入者の増加を問題視しているのは約3割
- 自治区により意識の差がある
- 加入促進は市に任せたい



- ・地区による温度差は大前提
- ・画一的に進めるのは難しそうだ
- ・加入促進には必要性への理解が必須

86

【市内の素晴らしい取組み】

アンケートから

- ・女性の意見を聞く場を設け、OG会を立ち上げました
- ・デジタルに詳しい人を見つけ、SNS発信やスマホ講座を担ってもらっています
- ・一括集金や会議の簡素化、防災訓練内容の精査やLINEの活用で、負担軽減や活動内容の理解等が進みました

掛川市内の自治区も工夫や試行錯誤をしながら自治区活動に取り組んでいる

87

とりあえずやってみる(否定をしない)



結果を検証



改善してつなげる(ダメなら戻す)

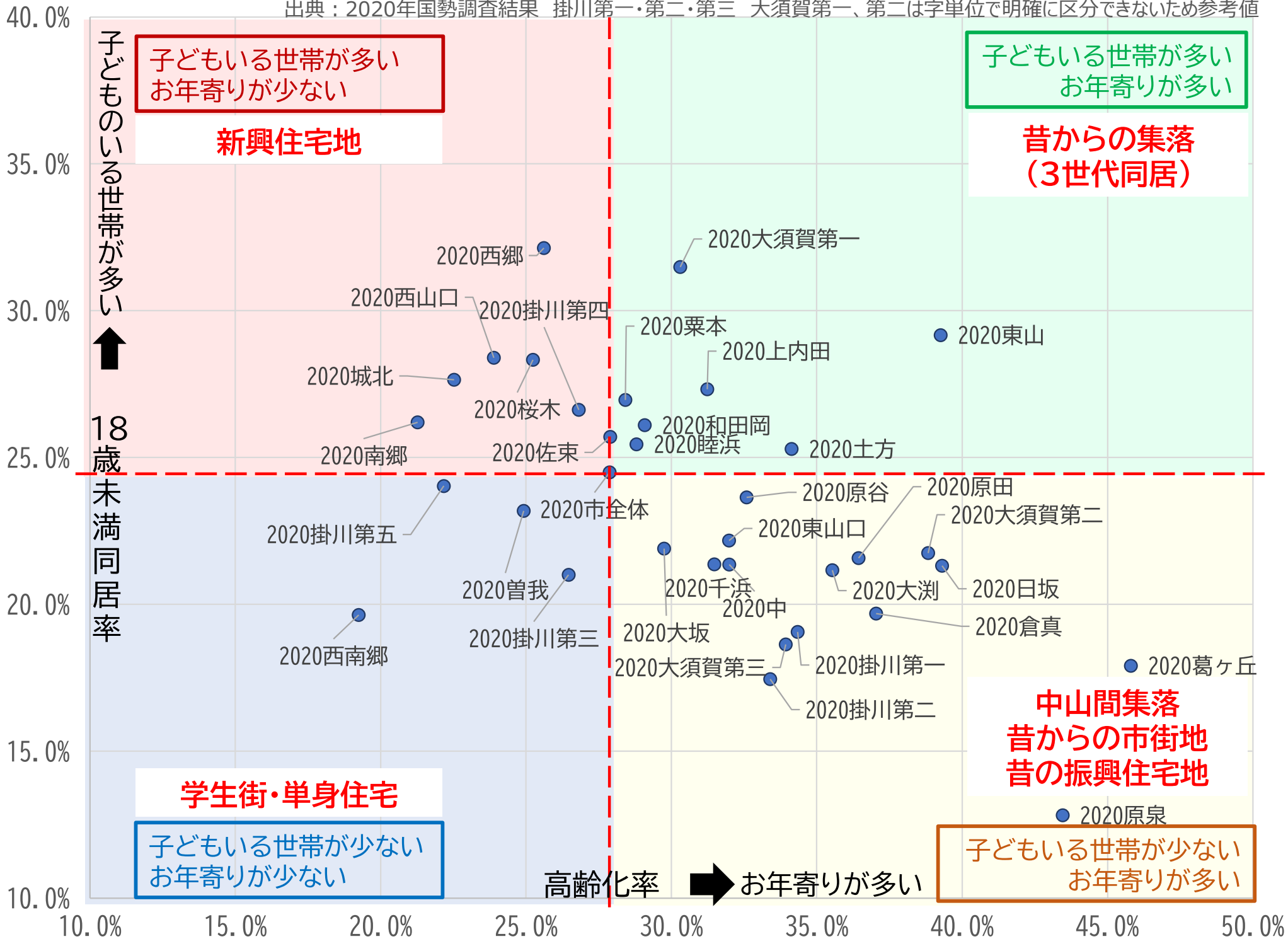
「～てみる」が肯定される雰囲気づくりへ

「負担」ではなく「楽しい」で語る自治会活動

88

出典：2020年国勢調査結果 掛川第一・第二・第三 大須賀第一、第二は字単位で明確に区分できないため参考値

◆掛川市『18歳未満同居率×高齢化率』



子どもいる世帯が多い
お年寄りが少ない

新興住宅地

子どもいる世帯が多い
お年寄りが多い

昔からの集落
(3世代同居)

学生街・单身住宅

子どもいる世帯が少ない
お年寄りが少ない

中山間集落
昔からの市街地
昔の振興住宅地

子どもいる世帯が少ない
お年寄りが多い

◆掛川市『18歳未満同居率×高齢化率(2010年から10年間の変化)』

